



春

ただその暖かさだけを

冬の間の寒さの中で

追い求めて

ただひたすらに

新芽のふくその春に

希望と夢をいだいて

寒風の中で

いまかけ出そう

希望の春に向かって

スプリング

# 目次

## \* 巻 頭 言

## \* 自 治 会

後期会長として

後期副会長として

前期会長として

校内球技大会

自治会祭

北野交歓

体育大会

コーラス大会

S 51年度行事予定

## \* 持 説

随 想

高校生活における青春

某月某日高校自治会本部室にて

書物と人と

後期自治会会長 梶原一幸

後期自治会副会長 田中又衛

前期自治会会長 前 信 潔

浜 中 武 彦 校長先生

福 田 康 司

田 口 雅 一

中 野 ひろみ

\* クラス紹介……………

28 クラス

13

\* 先生紹介

荒井先生 上総先生 河瀬先生  
阪本先生 清水(泰)先生 竹田先生  
近松先生 高山先生

36

\* クラブ紹介

男子ソフトボール部  
硬式テニス部  
女子バレーボール部  
写真部  
新聞部

40

\* 編集後記

表紙デザイン…………… 角谷広樹

43

## 後期会長として

後期自治会会長 梶原 一幸

「本校に於て、自治会活動に対する自治会会員の積極性を見ることは少く、又、自治会の為に働いている人は、一部の人たちだけである」こんな言葉を、たびたび耳にします。おそらく、皆さんもよく聞く、又、そう考えていると思います。そして、僕が、前期文化部長及び後期会長として、即ち、そのいわゆる「一部の人たち」として感じたこと、そして、今も感じていることは、「自治会活動で、自治会員の参加を求める場合、その基盤が整えられさえおれば殆どの自治会員は、それに参加し、かつ、各々の考え方、感じ方で自治会というものを考え、感じとってくれる。たゞ、その際に、自治会員であるという自覚を、まるで、どこかに置き忘れたかの様にすっかり忘れている。」ということなのです。これだけでは、文頭の言葉と、僕の意見のつながり、即ち、僕が、文頭の言葉を肯定しているのか、否定しているのかは、解りにくいと思います。しかし、結論から先に言くと、答えは否です。というのは、文頭の言葉は、自治会というものを、正しく把握していないからです。

先ず、その理由は、我々の自治会は、非常に多くの要素から、成り立っているということです。即ち、それが、多くの行事であり、厚生部の苦勞であり、このスプリングの編集なのですが、ここで忘

れてはならないものとして、クラブ活動があります。本校におけるクラブ活動は、クラブ一個のものとしては、存在し得ないのです。そして、クラブ活動が、自治会活動に含まれる例として、クラブ予算があげられましょう。又、いろいろな行事においても、多くの自治会員の積極性を見ることが出来ます。皆さん自身で、体育祭や文化祭を思い出して下さい。（新入生の方々には、乞う御期待）そして、話は少しですが、自治会の立場から見れば、自治会特別会員なる、本校の総ての先生方は、我々普通会員の良き友達なのです。ですから、先生方は、いろいろな行事に於て、我々に劣るまいと、努力奮闘なさるのです。自治会は、この様な、心暖まる意志疎通の場をも提供しているのです。

次に、自治会の為に働く、即ち、自治会員の為に働く人は一部の人たちだという批判に対してですけれども、考えてみれば、これは極く自然の事なのです。自治会活動の進行をすみやかにする為に、つまり、自治会の為に働く為に、本部執行部がおかれ、又、各部が成立しているのですから。そして、自治会員で選んだ人達によって自治会活動の基盤が整えられる。しかし、そこに、多くの自治会員の声が反映されるべきであることは、言うに及びません。だから、自治会の為に働く者は、どんな時でも、自治会員の協力を必要とするのです。

最後に、このスプリングを読む我々は、総て、自治会員であるという自覚をもって、これから先の自治会活動に、参加してもらいたいと思います。そして、一人でも多くの人が、自治会員であるという自覚をもち、自治会という存在の認識を、新たにしてもらえらば、僕は、会長として、これ以上の望むべきものを持ちません。

## 後期副会長として

後期自治会副会長 田 中 又 衛

私は、本校に入学してまだ半年余り・このようなものに書くような話題は、これといって持ち合わせていないのだが、入学以来感じたことを二つばかり……。

一つは、なんと行事の多い学校なのだろう、ということである。楽しい行事だけを挙げてみても、自治会祭、北野交歓、コーラス大会、体育大会、文化祭、そしてバレーボール大会を始めとする各種球技大会に、水泳大会、マラソン大会と、きりが無いほどだし、それらの行事への参加のしかたも、またあっぱれなもので、何か行事が近づくたびに、各クラスは五時十五分ぎりぎりまで（あるいは五時半、六時近くまで？）その準備に余念がなく、サッカー大会の時などは、大阪城まではるばる遠征して練習したクラスも多かったそうである。これでは、「大手前独自のなごやかな雰囲気」が生まれてくるのも当然というものであろう。

二つめは、このように自治会がほぼ自主的に行なっている行事が盛んなわりには、みんな自治会に関心がないということである。聞けば私が公約として掲げていた目安箱の設置も、実は既に行なわれていたことで、ただ誰も入れる人がないだけだということである。おそらく、自治会のことは、執行部に任して、自分たちは執行部で決まったことをやっておれば……、という考え方の人が多いからだと思うし、私もついそう考えてしまうことがあるので大きなことは言

えないが、これは大切なことだと思うので、是非言っておきたいと思う。執行部でいろいろ意見は出ても、皆さんの方からもそういった意見が来ているということでない、なかなかその通りにできないものだからだ。

私も、これから目安箱のピーアールをしたり、できれば各館各階に一個程度に、数を増やすなどのことを実行していくつもりなので皆さんも、是非自治会に関心をもって、協力していただきたいものだと思う。

## 前期会長として

前期自治会会長 前 信 潔

私が、前期約半年間の任期を終えた後感じていることは、無事に終わったということの満足感と、会長という仕事、いや自治会という仕事の苦しさである。「決められた行事の日程を消化しただけで何が満足だ」と言う人もいるかもしれない。しかし、前期の会務は年度予算の作成と文化及び運動系の行事運営がすべてであったと言っても過言ではなからう。特に、二学期前半の行事の過密ぶりは、みなさんも御存知だろう。参加する側があれだけ忙しいのだから、準備をする側の苦労は、わかって頂けるだろう。少し、グチッぱいことを言ったが、この苦しさを理解してもらうことが、自治会活動への積極的参加に結びつけば私は、本望である。

次に、前期の会務についての問題点と私個人の提案を述べてみる。まず、会計予算の件だが、収入が支出に追いつかない。

それなのに、クラブの部長様達は、予算が少ないとおっしゃる。中には、クラブの予算が学校から出ていると思つた人がいる。クラブ予算や行事のクラス等への援助はすべて、全校生徒（クラブに入っているかにかかわらず）から集められる自治会費が大半を占める自治会のお金ですぞ。そこで提案「自治会費を上げるのが最も大巾な増収だが、これは自治会の一存では決められないが、それ位しか策はないのでは」。次に、自治会祭だが、形式は現状でも良いと思うが、実施日をもう少し遅らせることは出来ないだろうか。試験終了後一週間というのは、かなり準備がシンドイなあ。北野交歓は、毎年文化面での交流をと叫ばれているが、これも時間、場所、北野側の体制etcの問題がある。それに、俗に「北野は体研、大手前は自治会」が力を握っていると言われていますが、これもある程度、事前に両校体研間での打ち合わせがあるようです。そこで提案「北野交歓連絡会議を前年度中に持つようにすればよい」。体育大会ですが、マンネリ化してきたと言われ、「体育祭」と、呼び名を変えようなどと言っていますが、そんな次元の問題ではないと思う。コーラス大会は今年も三年が上位独占でしたが、来年はクラス編成を二クラスずつにすればよいのでは。文化祭では、クラスの役員の協力が不十分であつたような気がする。

以上、かなり独断的な批判等を述べた。これに反問のある人は、まず一度自治会室をのぞいて下さい。これが私の唯一の答えです。

最後の弁明「私も前期自治会役員一同は、行事運営にのみ専念後々語られるような功績は何一つ残さなかつた。制服問題、更衣室改善等、諸問題を全く解決できずに終わった。しかし、それよりも

もっと大切なものを残した。それは生徒間の和である。しかも、これは各生徒の自主性があつてこそ得られたものである。」

## 校内球技大会

### 男子サッカー

|      |    |    |    |
|------|----|----|----|
| 一年優勝 | 八組 | 二位 | 一組 |
| 二年優勝 | 一組 | 二位 | 三組 |
| 三年優勝 | 一組 | 二位 | 二組 |

### 女子バスケット

|      |    |    |    |
|------|----|----|----|
| 一年優勝 | 四組 | 二位 | 八組 |
| 二年優勝 | 六組 | 二位 | 五組 |
| 三年優勝 | 六組 | 二位 | 二組 |

## 自治会祭

昔、昔、あるところに階段太郎と言う豪傑が住んでおりました。近隣にならぶものなく、その剛力はしばしば人々の口をついて出、村人達の誇りでありました。ある時、御城下でスモウ大会が催され太郎はもともと身におぼえもありますし、ましてスモウは得意でした。しかるべくして、スモウ大会に参加いたしました結果は惨々たるものでした。太郎は、「どうしよう、村の人にあわせる顔がない。オレの力とはこんなものだったのだろうか。」などと考えながら町中をよろめいておりました。すると向こうの方から自分が負

かされた相手がノッソリノッソリと歩いてくるではありませんか、思わず太郎はかたわらにのきました。大男はいかにも得意満面という体で歩いてきます。二歩三歩、太郎に近づいてきた時の事でしょか、急に大男は石につまずいて、スッチェンコリン倒れて顔はドロまみれです。まわりにいる人達は、みんな大笑いです。太郎も一瞬アッケにとられていましたが、みんなに負けないくらいの大声で笑いました。

中間試験で、疲れた一年生は、自治会祭で傷ついた翼をいやしてください。

## 北野交歓

毎年毎年、同じこと。また北野交歓がやってきた。

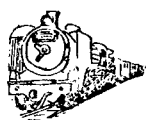
連戦連敗、勝利なし。運動場の大小に關係ありやなしや。

鼻をかむあり。何が何やらわからぬ念仏となえひたすら出番を待つあり。したり顔して首肯する俗人もあり。

ともかくにも楽しきかなこの一日。

文句あり、北野交歓の意味いかにや。単なる戯れ、深意なし。形式の踏しゅうのみと。

固くなりなさんな。おれきれき。いいじゃないですか。伝統の上にあぐらをかき、ひと日大いに、北野生と、打ち興じるのも。



## 体育大会

九月二十六日昭和五十年年度体育大会が挙行された。晴天に恵まれその日、校長先生は「私が本校に就任して以来、最も良い天気です」とおっしゃられた。これもひとえに大手前生の日頃の精進のおかげであろう。今年の大会は自治会本部の方針により体育大会というよりも体育祭という感じだった。

今年は例年になく各クラスとも応援合戦に力を入れていたので若者の気迫が感じられた。黒服白だすきに身を固めはちまきしめてゲタをはいた男子の力強い応援、ミニスカートとTシャツを身につけてふさふさ振って歌に合わせて踊る女子の華かな応援など：

トラック競技の方は白熱した戦いが展開され、真紅の優勝旗を手にするために恥もかなく走り走っていた。一方、レクリエーション競技はなごやかなムードに包まれ、先生方も青春時代に返られてひと汗流された。とりわけ皆の注目を浴びたのはクラブ対抗リレーだった。

野球部とサッカー部の壮烈な戦い、ユニークな趣好を凝らしたラグビー部、畳を運んだ柔道部、その他いろんな格好をして各クラブの特色がよく出ていた。

全体として去年よりは華かなムードが高まり、体育祭という感じが多分に出ていたが、まだ、競技・応援等に乗る切らない人が若干いたのも一つという感じだった。

## コーラス大会

### 決勝結果

| 順位 | 学年・組     | 自由曲     |
|----|----------|---------|
| 一位 | 三年二・四・五組 | 「四季」から春 |
| 二位 | 三年一・三・六組 | 最上川の船歌  |
| 三位 | 三年七・八・九組 | 地球の歌    |
| 四位 | 一年六組     |         |

例年どおり、一次・二次予選、決勝と三回に分けて行なった。  
一次予選では課題曲（なぎさ歩めば）を歌い上位十三クラスが予選選を通過した。

二次予選では課題曲と自由曲の両方を歌い上位七クラスが決勝に進出した。自由曲では、伴奏にピアノ以外の楽器を使ったクラスもあったが合唱とは合わなかったようで落選してしまった。

決勝ではまたもや三年生の独占に終わった。毎回三年生の男女比率の差による三クラス合併が他の学年に不利となるため問題になるのだが今回も良い解決策がないまま行なわれた。来年だけは三年生が十クラスのためその点は大丈夫だが根本的な解決が望まれる。しかし今回特筆に値するのは上位入選不可能といわれていた一年生が二年生を押さえて四位に付けたことである。  
よく健闘したと思う。

なお、予選は本校講堂で、決勝は文化祭第二日目の青少年会館で行なったことを付け加えておく。

## S 51年度行事予定紹介

S 51年度の主な行事をだらだらと紹介します。

〔四月〕（クラブ紹介）観客はもっぱら一年生・そうでなければひやかし。

（自治会役員選挙）誰かする人いませんか。人数そろえるのに一苦労。もしかすると五月の行事かも？

（校外教授）えらい大層な名前だけど早い話が遠足のこと。

〔五月〕（創立記念日）連休なんてくそくらえ！意味わかるよネ。

〔六月〕（自治会祭）クラスの親交を深める良い機会。前回一年生で不参加のクラスがあったけど一年生は参加した方がよいと思う。

（北野交歓）北野高校との運動面での交流。今年は勝つかな。

〔七月〕（水泳訓練）一年生だけにある。マラソンと並ぶ二大苦行。

〔九月〕（水泳大会）二日間あって熱戦の連続。ただし放課後。

（体育大会）ご存知でしょ。（自治会役員選挙）今回もよろしく。（コーラス大会）校内合唱一色に染まるほどのクラスも練習熱心。

〔十月〕（文化祭）第一日は校内展示とフレイヤーストーム。第二日は青少年会館で飛行機投げ大会？

（校外教授）今回は学年単位

〔十二月〕（スケート教室）自由参加 但しお金の負担あり。

〔二月〕（大阪城マラソン）大阪城外堀二周 女子は半分。死にソーパー面が少ないのであまり書けなかったけれども他に球技大会を数回予定しています。また自治会の最高決定の場である総会も数回ひられます。以上、駄文ですが行事紹介を終わります。



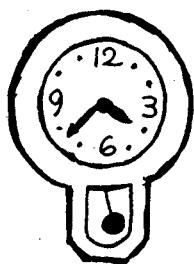
## 随 想

浜 中 武 彦

前号のスプリングに何か感想を書くようにとの依頼を受け「現在の大手前高校生に期待すること」という駄文を草したが、今読み返してみると、やはり教員独特の説教調になっていて、職業がらとは言いながら、それを読んだ生徒のみなさんは、あまり面白くなかったかと思う。そういう意味で、今回は大いに自己反省して、読んでもらって興味のある文章にしたいという大それた考えをおこしたがそうになると、さて何を書いたらいいのかアイディアが浮かんでこない。嘘偽りでなく、三日間程、悩みに悩んだ末、面白く読んでもらおうというような野心を持つから駄目なので、そういう野心はサラリと捨てて、筆のおもむくまま、気のむくまま、いわゆる無欲の境地で感想をかこうと悟り(今)をひらき、やっと「随想」という題名で今の私の心境を述べることにした。

さて、前置きが長くなったが、いよいよ本論に入ることにしよう。私は、今回三月末日付で、大手前高校を最後に、長かった公立学校教員の生活に終止符をうつことになるのだが、今の私の心境は「幸福」の一語につきる。昭和十三年に大学を出て、当時新設校であった豊中高等女学校(今の桜塚高校)に奉職して以来、三十七年にもなるが、その間、軍隊生活を除いては、ずっと教員生活(教育行政を含んで)続けてきた。教育一筋にうちこんで来たといえど「聞こえ」はいいが、実は他につぶしのきかない人間だったというのが本音である。この期間は長いようでもあり、またアツという間にすぎ

たようにも思う。最近のような社会情勢の激動期にあつては、あすまた何が起こるかわからないが、とにかくこの原稿を書いている現在、私の人生の大半は、まことに幸福だったといえよう。そしてもし二度の人生をすごすことが可能なら、私はまた教員という職業を選びたいと思う。しかし、それほど「幸福感」を味わうことができた最大の理由は、私の奉職校のほとんどすべてが、よき先生とよき生徒に恵まれていたという事実にもとづくものであり、いわゆる「ツキ」がよかったといえる。父が教員をしていた関係もあったのか、私が教員になりたいと思ったのは小学校四年生の時だった。当時の担任の先生が非常にりっぱな方だったせいか、その影響を受け自分もあんな先生にと思ったのが私の職業選択を決定的なものにしたと思う。就職後何年かたち、学校という現場を一時離れて、いわゆる教育行政にたずさわった数年間も、校長になってからの数年間も、実をいえば、直接生徒に接触することのできた時の方が、よりいっそう幸福だったと思う。しかし、本校での五年間は、直接生徒のみなさんとの接触は少なかったとはいえ、先生方を通じ、みなさんとの心の交流はかなりできたと信じている。残された期間、全力投球をして「わが人生に悔なし」という心境で本校を去りたいと念願している。



## 高校生活における青春

福田 康 司

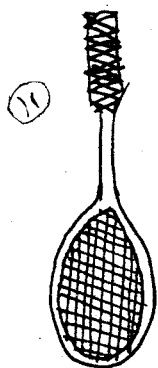
高校生活も一年八ヶ月が過ぎ、自分なりに楽しくまた充実した日々をおくっているが、その反面、これが私の青春というもののなのだろうかという疑問が、いつも頭から離れないのである。

最近、総理府が昭和五十年年度版の青少年白書をまとめ、そこでは「のんびり楽しく暮らしたい」半面で「やりがいのある仕事を求めている」——という青少年像を浮かびあがらせているという記事を読んだ。しかし、こうした状態は望ましいものなのだろうか。

また、「変わりました大学受験生気質」という見出しで最近の大学受験生には、意気込みや反発心というものがみられないともかいてあった。こういういわゆる「無気力」はどこから起きているのだろうか。大学生が、この十年間に一、八倍にもなるという高学歴社会の出現が受験戦争に拍車をかけたが一方では、低成長率時代に入り、不況による大学生の就職難など、最近では受験生にフアイトを促がすようなものがないことは確かである。ところが、この傾向は受験生だけではなく、高校生全般に広がっているというのである。自分の生きがいを探し得、それに打ち込んでいる人もいるが、それを探し得ず挫折した人も多い。その中には、高校生活というものの自体に疑問を感じている人が少なくないのではないか。こういう状況の中で、私は、今一度これらの問題を真剣に考えなければならぬと痛切に感じている。

そこで、私達が今直面している高校生活における青春ということについて考えてみようと思う。まず、青春という意味を調べてみると、広辞苑では一年の若い時代。人生の春にたとえられる時期だということであった。勉強し、クラブ活動にハッスルし、恋をし、交友を深めていくということだけが青春なのだろうか。もちろんこれらは、私達の青春にはなくてはならないことだ。しかし、青春ということの中には、若いと意味が含まれている。若いということは、中に無限の可能性が秘められているということでもある。つまり、三年間の高校生活でこの無限の可能性（抽象的な言い方だが、要するに何かをする力だと思ってい。）を存分に発揮することが、高校生活における青春を意味するのだと思う。それから、私達の当面の目標である大学受験。これがために高校生活は灰色だなんて考えている人もある。こういう考え方がさきほどの「無気力」につながっているのだ。しかし、「冬来たらば春遠からじ」というのではない。来たるべき春（これは青春の「春」ではない）に向かって、私達の可能性をたしかめてみようではないか。

長々とわけのわからないことを述べてきたが、要するに、今の私達には、青春を謳歌するという意味でも、自分で納得でき、将来社会人となったときにも有意義であったと確信できる高校生活をおくることが要求されるのである。



某月某日  
某高校自治会本部室にて

文化部長 田 口 雅 一

わたしは今、自治会本部室にいる。ちょっと歩けば、ほこりのま  
いあがりそうな部屋である。蛍光灯も明るいとはいえないし、机の  
上はプリント類の山である。いつの間にかこうなったのか知らないが  
わたしは後期の文化部長である。後期の文化部長、その最大の仕事  
がこの「スプリング」の作成である。この「スプリング」について  
少し話したい。例年、十二月の期末考査というのは各クラスの文化  
委員の人々にとっては、他の人々より以上の苦労がある。それはこ  
の「スプリング」の原稿作成で試験勉強の間をぬって書かねばなら  
ない。わたしもその一人である。どうしてこうなるかというと、一  
月末にはみんなも知っているように三年生を送り出す「予餞会」と  
いうのがある。

これまでに「スプリング」を作成し、三年生の人たちに渡さねばな  
らない。印刷に一月かかるかと思えば終業式までにすべての準備を  
せねばならないのはおのずと知れたことであろう。

さて、例年「スプリング」を作成して、発行しているが、諸君は  
どのくらい読んでくれているだろうか。自分のクラスのクラス紹介  
の部分だけとか、クラブ紹介だけとか、それは人によるけれども、  
先生紹介なんというの、おもしろいと思うよ。けっして自治会の  
「スプリング」じゃないんだ。みんなの「スプリング」なんだよ。

今年はどうなのが出来上がるか楽しみだなあ。  
常任委員という仕事はいろいろといそがしい。約一週間に一回、  
常任委員会というやっかいな会議はあるし、会長は、「おれは総務  
執行はおまえら」と言っただけで知らん顔するし。ねえ、梶原君、当って  
るでしょう。

わたしは今、自治会本部室にいる。重い鉄の扉、冷たい壁。でも  
そこから出てくるものは新しく、暖かいものだ。自治会を孤立さ  
せずに、みんなのできるだけ利用してほしい。そして大手前高校全  
体をもっとすばらしい学校にしていってほしい。こんなにまじめに  
文章を書くのは初めてだ。こんなにまじめなことはびっくり書いてて  
いいのかなあという一種の不安感がおそってくる。それではこの辺  
で不安が大きくならないうちにやめよう。

最後に、この「スプリング第十六号」は去年と同じく、ページ数  
を四十ページに増して、このための不足金は生徒諸君から一人百円  
ずつ集めさせてもらった。なにしろ、この「スプリング」の年度予  
算が少ないうちに起った問題であり、これは改正を必要とするもの  
だろう。

みなさん協力ありがとう。  
ほく、こんなにまじめな文章を書いたのはほんとうに初めて。





## 人と物と書

二の一

中野ひろみ

「本棚を見れば、その人の性格がわかる。」と言われるけれど、  
気むずかし屋君が井上ひさしの本を好きだったり、この世に何の悩  
みもなさそうな子が大宰治を読んでいたりして、意外に思う事がよ  
くあります。地下鉄の中で私の知ってる本を読んでいる人を見かけ  
ると、その本の主人公は、この人の頭の中でどのように描かれてい  
るのだろうかよく考えます。

文学と人間性のかかわりは、相当複雑なもののようにです。

だから結局、その膨大な知識の流れの中からその人が何をつかみ  
とれたかということが大切でしょう。時々、最後まで読んでなお心  
の中に残っているもの―それによって心が自由にのびやかに大きな  
やさしき、強さに向かって広がってゆくような気分になる本に巡り  
あう事があります。こうなると「妃の位もなにかはせむ」と言った  
更科日記の作者の気持ちがよくわかります。又反対に、すばらしい  
傑作と言われている本だけど、どこか心にびったりこない、ただ活  
字を追うだけで、心は徐々に冷えていくというような本もあって、

「こういう本に感動しないなんて私がおかしいんじゃないか」とち  
よっぴり不安を感じることも確かです。でもやはり読書とは、個人  
のものであって、自分が消化できない本を読むことは無駄でしょう。  
しかし自分にとって有益か無益かは、簡単に決めて欲しくないの  
です。さっと読めば気づかなくても、くりかえし読めば読むほど出  
てくる味（「知性」とでも言えるでしょう）があるものです。私の  
本棚にも一人前にトルストイや三島由紀夫のいわゆる名作が置いて  
ありますが、現在の私にはあわない本として眠っているのです。

私は定見がないと言うかある本を読み、なる程と思ひ、他の本の  
まるっきりに違ふことにもうなずいてしまう所があつて、「身変わり  
の早さは若さの特権」という言葉がまさにびつたりなのだけれど、  
生きた知識をもった大人たちとの対話を喪失してしまつた私たちは  
読書を意識して書かれた本を片やらず手あたり次第読むべきだと思  
うのです。

私にもお気に入りの作家、庄司薫や五木寛之を初めとして、いっぱ  
いいて、一ぺんにその人の本を三、四冊も買つてしまふのだけど、  
今まで知らなかった作家の本によつて新しい自分を発見できた時は  
とっても新鮮な感動を覚えるものです。

とにかく、心にぽっかり穴のあいたような気分のする時に、たっ  
た一人ぼっちでも、幸福になれるなんて、すてきな事だと思ひませ  
んか。



# クラス紹介

## 28 クラス

### 一年 一組

もうスプリングの原稿を書く季節になったのだなと同時に、時間の流れのあまりの速さに驚いています。が、驚いてばかりでは後が続かないので、私なりに感じている一年一組を御紹介しましょう。

この一年間の行事を通して、四月はまだみんな慣れなくて、何かヨソヨソしさが漂っていました。五月中旬考査。そして六月忘れもしない自治会祭。我が一組は、コンサート・アンケート発表。そして女子は、恥ずかし気もなくゆかた等着で、校内を、宣伝に回ったのでありました。テスト終了より一週間ほどの準備期間ではありましたが、皆、精一杯がんばって、朝早く集合した班もあり、とにかく充実感はあったと思います。そうそう我が一組は特に女子は、行事の後の二次会なるものが、たいそう好きで、私なぞ、それを生きがいにしているのでありまして、この時以来

事あるごとに、<sup>オメ</sup>や三番街を、さまようという習慣が身についたのであります。エーそれから北野交歓・期末考査等を経て、私にとっては（泳げませんので）涙の水泳訓練がありました。夏休みが終わり、駆け足の二期であります。これは実にすごい、水泳大会

コーラス大会・体育大会・文化祭と中間考査までピッシリ行事がつまっていました。おかげで（と責任転嫁）我が担任河崎さん（と人は呼ぶ）が、黒と赤のボールペンをひんばんにチェンジしなければならなかったのであります。

ではここで、行事を通しての反省を。まず、皆が燃えることには言うことなし。しかし、計画性のない、幼稚な面も多かったように思うのであります。

では、次に、行事には関係ないのですが、この一年間の事件を拾ってやりましょう。平瀬ホイホイ、びんづめ平瀬、平瀬ハウス、平瀬センセのお風呂と、続々と平瀬シリーズ登

場・荒人の中、ホットなひと組あり・片われ数名。（羨望の意が漂っておりますナ）先生の物まね大流行、中來田先生が「大手前の女生徒で初めてですよ」と言われる編み物流行中（女子の中では、二代目椿をめざすAさんによる編み物教室計画中）早弁族多数（他のクラスでは、早弁していると、白い眼で見られるそうですが、我がクラスでは、昼食時の食弁の方が、白い眼で見られる雰囲気であります）それから驚異の天才児がいて、平瀬先生なぞは「今夜どう」と、おさそいをかけるのであります。それから、キャッサバ（渡辺先生）と食堂族との、食うか食われるかの、チコク取りゲームも、重大事件の一つではないかと思われます。（かなり運が作用するようですが）

そろそろ、まとめを：：と言っても、何を書けば良いのかなあ。とにかく、にぎやかな女性上位（と私は思っております）の、ふざけた、そしてステキなクラスであります。

### 一年 二組

思い起こせば一年前、筆者は配られたスプリングを読んでいた。そして我が担任キャッ

君子のような人かも知れない」と、胸をおどらせていた。しかし、この期待はまもなくムザンに打ち破られた。君子なんてウマでもトンでもない。彼はそのあまりの小心さゆえに有名になっていたのだ。一例もあげると、この先生のクラスになると、校内大会は悉く勝てない・どうあがいても勝てない。オリンピックの標語を忠実に守らねばならぬ。

『参加することに意義がある』このことばの  
 ありがたみを、感じさせてくれるのがキャッ  
 サバなのだ。まず6月バレーボール大会、六  
 人制九人制男女とも一回戦敗退。9月コーラ  
 ス大会、校内最低（『ベッタ』or『ドンケツ  
 と読んで欲しい。）11月男子サッカー大会一  
 回戦敗退。何をやっても勝てないのだ。そう  
 だ、あの志賀直哉先生も言っていた。

「勝つことと負けることは両極ではない。それほど差がないような気がした。」と（『城の崎にて』より引用）言っておられるそうだ！ 勝敗にとらわれることはないのだ！ ガッハッハッハッハ （筆者はここでくやし涙をふく。）

4月。第一回目検尿。検尿のオッサンの（タ  
テマエは厚生委員というカッコいい名が使わ  
れている）M君（偽名希望）が「へいへい、  
早よ出してや。」とせかす。「ちょっと待つ  
てくれ。今出すから」「ホラ、C戸々々（戸  
ト）」

5月 第1回数学平常考査。高校に入って初  
めての試験だけにみんな虚々実々のかけひき  
をしたものだ。

(I) 試験前。『オレ全然勉強してないねん。もうあかんわ』(ホントはやってる)という声が聞こえる中で『今度の試験はオレのものや』と言う者一人。人呼んで巽辰吉。(12月現在鳴かずトバず)(II) 試験直後。無言(これはカケヒキ) (III) 答案返った時、同じく無言(コレはガックリ来たため)

6月 続検尿 M君活躍。 8月 補習  
ヤクザみたいなオッサンがヤクザみたいなメ  
ガネをかけてくる。明日はラメ入り腹巻きか  
と一同恐れる。9月 体育大会学年ベッタ。  
10月 早弁のためにN先生の授業に遅れる者  
多少あり。志賀直哉氏がN先生の授業を評し  
て曰ク『授業と休み時間は両極ではない。』  
それほどに差がないような気がした。

N先生コレヲ聞キ默シテ語ラズ。

11月 続々検尿 王倒の支持を得て再選されたM君活躍。検便がなかっただけM君も救われたと思う。検便がもしあったならば『早よ出してや』『鯽ッ。鯽ッ』となっただろう。そしてこの一年間を通じて『放出のローカル少年』と呼ばれた者一名。(11月から筆者もお仲間になった)彼は本名を忘れられても、アダ名だけは検尿のオッサンM君と並んで栄光の2組史に残されることでしょう。

一年三組

名門、大手前高校において、ひとときわ目を引く（というより目をおおいたくなる）やんなかなクラスーそれが一年三組なのです。

思い起こせば、あの一年前の春の日に、期待と不安を胸にこの学校に入ってからもう一年人間、丸くなりましたワ 

春の遠足、六甲山では、遭難しかかった人「ちかれたビー」だった人、いつの間にか女子と仲良くなつてた男子もいたっけ。

初夏の自治会祭「寺内貫太郎一家」では会場、水を打ったように静まり（つまりしらけてたのです）関係者以外にはうけなかった。

子学年準優勝・二期期初めの水泳大会では、混合リレー校内一位。総合でも五位入賞、サッカー、バスケット大会では、涙をのんだけれど「やれば、できるんだなあ」と、感心。

又、文化祭では、和氣アイアイと喫茶「岡田ミュージックホール」も大成功。(レスカのお味どうでしたか?)二次会も大盛況?

今まで、極力避けてきた話題ですが、やはり少しふれましょう。数々の定期・平常考査ともみんな、力の限りがんばっております。ただ控え目なだけなのです。大器晩成という言葉もありまし、先生、長い目で私達を見ててください。(あまり期待なさらずに……)

このようなクラスを、いつも穏やかにニコヤカに見守ってくださいのが我が担任、岡田先生なのです。生徒の個性と自主性を大切に、暖かいムードでクラスを監督してください。先生、「怒りは無知、笑いは悟り」の言葉がピッタリ。筆者など尊敬の念を抱かずにはいられません。(ところで先生、化学のテストの水増し、よろしく願います)

こうして作られてきたクラスのムードは、常にものびのび、各人の個性が充分生かされている反面、みんなとても仲が良いのです。その事実を一つ。それは『フアンクラブ結成』

ということですよ。つまりアイドルを共有するということで、今まで五つ以上もあったでしょうか。現在、女子の中には、三年生の某氏に対するフアンクラブが根強く残っていて、そのかたと廊下ですれちがう度に乙女心をときめかせている者数人(筆者も含)それを知ったか男子も負けじとがんばっている次第。しかし現実には、悲願達成者は数えるばかり、あとの者は、「結局、あきらめが肝心です」なので、つまりは、某師の言いつけを守る模範的クラスなのでしょうか?

こう書いてくると、とりとめのないクラスのようにですが、そうではありません。ほめられることだってあるのです。それに、この居心地の良さ、個性的な仲間たち(正体不明の者も……)明るく楽しいムード……

人間は、顔じゃないんです。もちろん成績じゃありません。その、つまりは「心」なのです。これを讀んだキミ? そうは思いませんか? これが、クラスの声だと言いきれるでしょう。(筆者のみかも?)

一年三組 パンザイ!!

#### 一年 四組

我四組・一学期の初め某先生より『秀才クラス』という呼び名を頂いた。それほど我クラスは活気があったのだ。その名に溺れたのがいけなかったのか、それとも本性を現わしたのか改名の披露と相なった。

でも思うに秀才どころかみんな天才ではないか。いろいろな面での活躍者が多数。総解の鬼やらチャレンジャー、野球部、テニス部サッカー部、石を投げられる人数名。

(もう私は気が狂いそうです)ー某先生。よくまとまっているんだよ。我クラスは。春の校外教授で男女仲良くゲームごっこ。俗に言う『発電所』発電所にあたった人はとてもあどけない表情で「びっ!!」お手下つないで、それもわざわざ男女交互にすわって。(誰ですか、いやらしいせん索の目を光らせているのは……)

それと偉大な女子連。バレーボール大会6人制校内優勝。あのIさんの男子顔まけ、大古もオヨヨのアタックを見たか。

自治会祭はまさに興奮の坩堝(るつぽ)恐怖?のおぼけ屋敷。マネキンさん御苦労さま。入った人は絵の具やら何やら出て来た時

はひどく被害を受けておられた。この場をかりてお呼び申し上げます。おぼけに扮したH君、O君とってもこわかった：：蒸しかえった教室の中での大奮闘。ただただ頭が下がるばかりです。

夏休み、クラスでお遊びを計画。台風の日スケートへ。参加者男子多数。女子少数。

二学期 体育祭。頑張ったけどねえ（はじめのうちはトップをきっていたのにねえ）（ここまで言えば結果は言わなくてもわかるでしょう。）（ここでもやはり女子連中心の応援男子連は何をやっていたのでしょうか。）（あまりけなしてはかわいそう。中には一生懸命の人もいたのに。という声あり）

文化祭 映画『子連れ狼』血枯旅（ちかれたび）を上映。出演の皆様ごろうさま。よく走りましたね。大好評のうちに終わる。大阪城での二次会おもしろかった。あの変なおじさんまだ大阪城うろついているかな。

そしてまたまた偉大な女子連の登場。バスケット大会学年優勝。立ちはだかる相手を、ばったばったとなぎ倒し、これぞ女の生きる道。ああ、ついつい興奮してしまっていますどうもすみません。

これが我クラスのあゆみ。長い長い人生の

ほんの短い一年間。泣いたり笑ったり、我ホームルーム教室も四月には新入生をむかえ、我担任森延哉氏も別の生徒を受けもたれ（もちろん何名かはひきつづきおそわることになるだろうが：）我四組はバラバラになっていく。でも私のいやクラスのみんなの心の中に生きつづけるであろう、我クラスの思い出が。永遠に！

## 一年五組

米 一―五の歩んだ道―

主に担任の紹介 米

一九七五年四月八日 筆者は期待と希望に心はずませ、昨夜の睡眠不足に因を起す睡魔と、ショックカノンのごとき精神力を武器に闘っていたのだ。と、その時筆者は隣席の男がまだ来ていないのに気付いた。そして先生はもう来てしまったのだった。先生の話の途中で、彼―Sが入って来た。その時だった。我らいたいけない45名の少年少女に決定的かつ壊滅的な打撃！雷鳴のごとき怒声が襲来したのは。

「アホか！おまえは、入学式の日イから遅刻するとは何事や！緊張感も何もあれへんやな

いか。」と、先生はおっしゃった。Sは

「すいません。片町線が京橋までしか行かなかったもんで」と頭をかいて、口をとがらしながら答えた。―後三十分ほど雷鳴が鳴りやまなかったことは、言うまでもない。それはまるで波動砲発射の際の轟音のようであった。その後我々が受けた受難の記をここに記す。それにはまず我等担任―平正人師のプロフィールなどを書きたいと思う。

御芳名―平正人 推定年令―四十代後半  
顧問部名―硬式野球部 担当教科―英語  
なんやら陽水とか吉田なんとか、沢田なにがしらの歌を極度に嫌われる。

記

一、四月二十五日―遠足において  
場所―近鉄大阪線の列車内

原因―七人程集まり、卑猥なことを話していた。

結果―七人とも親の呼び出しをくらう。  
その後寛容にも許してはくださった。

二、常に―教室内（ろう下も含む）

先生の問いに答えられなかったり、教科書の暗誦が出来ないと、ほうり出される。



### 三、自治会祭の参加禁止

最初は上級生のすることを見るのがほんまとおっしゃった。

などなど、書けばもっとあるのだが、だんだん背すじがうすら寒くかつ、自己嫌悪におちいつてきたので（筆者はほとんどの悪事に参加している）ここでやめにします。

ここまで書くと、読者諸君は、平師が、単にすごみをきかしていられるのみの鬼的存在だと思われるかも知れない。しかし、そうではないのだ。私たちが、生徒の自分をわきまえて行動をしていれば、人間味あふれたやさしい先生なのです。授業中には若き日、先生が踏破してこられた多彩な道をとつとつと話して下さるのです。それはたいへんためになる話です（ほんま）。ゆえに、師には反撥も多いかわりにファンも多いと聞いています。（筆者はノーコメント）

最後に、先生こんな気色悪い駄文を書いてごめんなさい。

### 一年 六組

やっと、苦しい期末テストが終り、「どこ

かへ行こうかな」等と、考えたと同時に、この原稿の期日を思い出したのである。ところが、いざ書き始めるとなると、何を書いていいのかわからず、その上、テストごとに、現国の平均点を、下けている筆者であるから、乱文や誤字が巷にあると思いますが、そこは御勘弁願いたい。

では、最初に、クラスの状態を、

我々、六組の個々は、ある時、バラバラであっても、ここぞという時に、割と、一致団結（ここに少し疑問点が残る）し、それぞれの個性を、上手に、生かしていると思う。（生かし過ぎの面もあるが）

常時、チャートを解き、UFOの一味と、うわさの高いM君、登校時から下校時まで、笑っているシーチャン、自治会祭、しらけ鳥や紙飛行機にも負けずにガンバッター君、この二人がいないと、絶対に笑いが起こるといふ。

カッチャン、ホンジョーコンビ、「落歩めば」を民謡調で歌ったN君。キャブテン・ウルトラことN君。スプリングに名前を出せとうるさいC君。そして、へたな、スプリング、あぐせく書いている筆者、K君と、まあ、他の三十数名。こういう状態なのである。

次に六組の足跡を、

四月、第一次平シヨック。遠足の平瀬先生のカンケリの姿が印象的。  
五月 バレーボール大会、男子六人、九人制一回戦惜敗、女子二位（女子はカッコエーけど、男子はなさけないなあ）中間テスト、数名のもの、少しも鉛筆ちびらず（筆者も含む）

六月 VS 北野、決勝でO君、見事な、前回り受身（ヨーヤルデ）、自治会祭、迷作（ベニスの笑人）、N君の女装と、キャブテン、ウルトラだけ。うける。

七月 期末テスト（このころから、数名のものの留年or自殺を、切実に考える）

八月 平先生の言葉どおりに、寝てすごす。

九月 アチーブ 数名のもの ガス管並びにひもを用意。

十月 体育祭。再びO君、河崎先生の目前で前回り受身を行う。成績、二十數位 文化祭

怪奇迷路を行う。特別出演のトンダ先生「お母ちゃんこわい」村岡先生「こんな暇があったら、スカートのシツケでもしなさい」

二日目 一年生ながらコーラス大会、決勝四位。民謡調のN君の声を消すのに一苦勞。

あるクラスメートの感想、「これで、明日から、ゆっくり寝れるわ？」

十一月、サッカー大会、バスケットボール大会、一回戦、男女ともに、優勝チームと当り敗退。

十二月 期末テスト 数名 ガス管くわえろ。  
と、まあー こんな調子で、八カ月過ぎました。あと、一月、二月、三月、はどうなるのであるうかと筆者は、大変心配しております。この続きは、また来年のスプリングかで、紙面のあなたと、お会いいたしましょう。

## 一年 七組

我がクラスは、学年を誇るまめじクラスである。何がまめじって、まめじが服を着ているという程だ。(誰かは恥じが服を着てます。)数学の平均点は、常に学年一これはひとえに我々の為にせせとお伽話をして下さる担任稲川先生のおかげである。(数学以外は：無言の抵抗)さて、このまめじというのも曲者。男女が疎遠なものこのためではあるまいか？しかし、疎遠なのは表面だけで、ゼロの我々が、お友達になりたいわ、と思っていないう様だ。個性が強烈でなじめないのかも：ところで、国鉄ストの折、必ず遅刻の三羽ガラスがいる。何とか中学の同胞である。二

羽は、バス混雑の為。一羽は片(ガタ)町線ストップの為。それ故この一羽、自転車を通学したのである。ガンバレ、みんなガンバレ。そんなクラスも、もう解散。我々の目立つた活躍といえば一なにせ、何をやらせてもあかんクラスで一校内大会と名のつくもの、片っ端から負けに負け負け、負け負け、負け負け。しかし、そんな七組の運痴ぶりを忘れさせてくれたのが、運動会の男子八百米追い駆けっこだった。この決勝のテープ切り争奪戦は、凄じさそのもの。我ら、この追い駆けっこに全てをかけ、サッカー部二士、ラグビー部二士の特攻隊を結成。カメマーク組と争い、一度は優勢となりながら(この時のえびそーど歓喜に踊り狂う四十士の中で、哀愁の一女士がいた。ピコーズ、追い越されたカメ組の人は、彼女のワンサイドのお相手だった。)惜敗に涙のみ、カメを討ち損じた我ら四十五士は、即切腹：あの四士の健闘は、運動場の隅で、イジイジとぐるを巻いていた。(どくろと違いますよ)我らに勇氣と希望をもたらしたのだった。また、実力考査に、顔がわからぬのをよいことに、特別参加し、見事目的を果たして涙にむせていた運動委員がいたと

で我が組の歌唱力を誇大宣伝した為、期待されすぎの感有り。結果、沈黙、ああ哀愁の七組。さて、文化祭であるが、我ら講堂にて劇「チコタン」を上演し侍り。何の因果か、三年の二クラスにはさみうちされ、致命的、と縮こまり侍りしに、どっこい七不思議。意外の好評に一安心。やはり、ジラ君の迫真の熱演、プラスαの芸人諸君のおかげなり。M君のおかげで三億円も時効成立。ああ、されど、君らは知らない。この劇を熱演したる六名を(「ダーリン」のお姉様、反省しています。)

以上で七組の紹介を終わりにしないと支離滅裂になりそうですが、自治会祭の活躍は極秘事項ですので、あしからず。

追記(七組羅貢賀記より)

- ・バス通学の方、胃がいれんに注意するベシ
- ・西区阿波座に火山有り
- ・ゴキブリは燃えます
- ・バス内で小学生に笑われぬように
- ・どこかに木炭ブレイン有り
- ・〇〇君、つきあって百恵より
- ・おおレット・バトラー様。(「おわび」途中、季節柄時代もの風になってすみません。)

## 一年 八組

「一八」と書いて「イチノハチ」と読む。これは凡人である。八組のやからはこれを「意地の恥」(イジノハジ)と……この形容は少なからず的を得ている。

わがクラスはおおいに良き(?)師に恵まれたようであり授業においては常に笑いがたえなかったものである。

われわれの一日はかの増山先生のH・Rより始まり、われわれに神々しい光を投げかけてくださるのである。しかし最近もう一人恆星が現われたように思える。

そしてわがクラスは祭というものに関しては執念ともいふべき興味をもっており、自治会祭、劇「首かざり」・文化祭「お庭のマーケット」を催したのである。

次に各月の大きなできごとを述べると、

4月：入学式 まぎまぎと伝統というものをみせつけられる。すばらしき校長先生を始め諸先生方のもとの学校生活に期待を抱く。

またクラスにおいては、多彩なる自己紹介あり・ここにおいて田中又衛という一大人物を知る。

6月：自治会祭あり・校内の客の足をくぎづ

けにして退場を一人も許さなかった、大悲劇！そして恥組を構成する一つ一つの粒子は一つモーパーサンもマツチャオという「又衛&道雅の首かざり」を上演。

7月：夏休みまであと少しと喜ぶ人も多かったが、それ以前に期末と水泳訓練でうちのめされる。

8月：休みにもかかわらず、補習補習でしごかれ、もうた〜いへん。

9月：アチーブメントテストとはこれいかに？ ようは100分テストのこと。結果は散々

10月：文化祭あり。「お庭のマーケット」は無情の雨のため、転地を余儀なくされたが、大手前のはなれにて、ゆかた姿の美女たちのつどう店を開店。

11月：概して、勉強の代めなクラスはスポーツがよいと言われるものであるが、もちろん恥組にそんなセオリーは適用しない。いや、正確に言うと、11月〇日まで適用しなかった。

というのはその日をもって、万年下位の汚名を挽回してみごと男子サッカー学年優勝、加えて女子バスケットボール同じく2位と一学年全体の驚異となったのである。

数々の英雄を生みだし、数々の栄冠に輝いた8組。自他共に許す「意地の恥組」の波乱の生活は、もうすぐ閉じられようとしている。

一つにおいては非力であるが、一つに集まり固体となったときのみ、予想以上の力を発揮するものである。これからそれぞれの粒子は違った道を歩んでいくけれども、いつまでも固体でありたいものだ。最後に、8組に栄光あれ！

## 一年 九組

名門大手前に入学した当時は、お互い見知らぬ者どうし、

「あなたどこの中学出身？」

「ぼくは〇〇だよ」

などと、ひかえめに静かに本性をかくしていた我々、九組の同志である。が、しかし、一カ月も立たぬ間に、ワイワイ、ガヤガヤ、先生方にもよく知れわたった。さわがしいクラスになってしまった。このことは少なからず勉強の方にも影響してか、数学の授業など大分粗放的にやられたこともあった。しかし筆者自身、その方が親しみやすく感じた。

クラスとしては女性上位、女性の存在をいまさらながら、強くおもしろい知らされた。といっても悪い意味でなく、実際、女性の方が頭

が切れたのである。その実例はこれからあげてみようと思う。

その前に、我がクラスの担任、香川定一殿について少し書いておく、香川殿は大手前でも名高い数学の先生で、硬式野球部の顧問である。背は低く、ふちのこいメガネをかけて小股ではぎれよく歩く。筆者は成績はよくないがいつ質問にいても、こころよく応対してくださった。世に言う「仏の」である。

さて、そろそろ年中行事の各々をふり返ってみよう。筆者自身、クラスにはあまり協力をしなかったのに、大きなことは言えない。

かたいながら、そろそろクラスの氷もとけてきた六月。自治会祭というものめずらしい祭りがあった。クラス参加として「わなげ大会」をやった。これに関する準備は、大かた女子がやっていたように記憶している。というのは、当日、筆者は朝練で七時半ごろ学校についた。すると驚き、女生徒が数人来て、ポスターなどの準備をしていた。あとのことは練習のため知らないままおわってしまった。各クラス、喫茶店やバーなど協力してやっていた。

同月に、伝統の「北野交歓試合」もあった。我々は北野高へのりこんでの一戦だった。こ

れは男子のうちわの話であるが、北野の女性徒クラス紹介を頼まれけり。そのよし、いささ徒は大手前より美しいそう。同様に女性に言わせれば、大手前の男などは、とるにたらないそう。

その他スポーツ関係として

・水泳大会

・バレーボール大会

・体育祭

・サッカー大会

などがあったが男女共に、成績はよくなかった。

それから、文化祭では、青少年会館での文化系クラブの発表が楽しかった。やじの飛行機なども、もろもろに飛んで。二階から投げたのが舞台へ着陸した時は、拍手かっさいで出演者には、いやな思い出だろう。わざわざクラスの特徴以外のことを書きよって、と思うだろう。しかし大あり。この時我がクラスは大へんまじめで、ほとんど飛ばさなかった。

## 二年 一組

男もすなる「すぶりんぐ」といふものを

女もしてみむとすなり。

その年の師走の十日余り六日の日、ある人

かに、ものにかきつく。

教室めいて夏の蚊、冬に厳しき風耐えがたき所、別館一階あり。そばには府庁もありき。ここに二十四人兄、二十一人姉誕生しけり。称して二年桃組という。師はうら若き乙女名は河瀬も子といへり。

(ある古文教師、もも子殿稱して、「大手前の小柳ルミ子」のたまふ。「いかに」とぞ人々いふ)も、子殿、生まれは淡路、年は二十?歳。いまだかつて清き乙女なり。

かつてある日、掃除さばりし者、遅刻したる者に向かひてのたまふ。「古文をもって詫び状を書くべし」と。これ、ある人今、悲しきかな、古文書きたるゆえなり。

さて卯月よりふりかえりみれば遠足あり。奈良公園に行きにけり。人々始めゆゑ、いとなじめず印象薄し。皐月。校内球技大会。

排球大会なり。男子ども、惜しくも一回戦で敗れけるが女子、厳しき朝練の末、学年第一位となりなり。これをもって男子「今度はわれらも優勝してむ」と心に誓いけむ。

水無月、自治会祭「憩ひ場こと演芸会」ギター、ドラムする者あり。歌う者あり。歌声集作る者あり。かつまた映画もしけり。

人々、よろずの事にとり組んで励みにけり。  
文月 ここにおいて桃組四十四人となる。

Iさん、千葉に行くといへり。年ごろよくく  
らべつる人々なむ別れがたく思ひてるうちに  
千葉の国へと門出す。

時もようやう過ぎにて長月となる。コーラス  
大会あり。これまでなじまぬ人々も、やった  
るべしと思ひて桃組一致団結し、日々問うこ  
となく練習しけり。かくして好成绩にて望む  
青少年会館に歌うことになりけり。

人々涙して喜ぶなり。

神無月 「シンデレラ」名演技たり。

人々四日間の間、中間考査もものとせず、待望の  
修学旅行へと至る。阿蘇の大自然に感嘆。  
また歌声、トランプあり。ミー姉ちゃんは、  
をかしきガイドさんなり。しかれども人々  
夜々を経て熱中しけむものなむありける。

これ、変電所といふ。も、子殿諸供に遊  
びたまふ。も、子殿おぼす、げにおもしろ  
きものかなと。桃組、いみじうフアミリー  
フアミリー、また夜光虫と仮す者あり。い  
と忍びてものす者ありし、とかある人なむ  
聞きつけはべる。

時移りて霜月、またもや校内球技大会あり。  
男子ども皐月に誓しどおり、学年優勝を収

めけり。なんと素晴らしきことかな。

桃組、世々を経て歩み來たる。

一見地味ながら、なごやかな組なり。

また、も、子殿と人々とのこのなごやかさも  
尽きせぬものなりとある人はおもふ。

忘れがたく、楽しかりしこと多かれど、え  
尽さず。とまれかうまれ、とく載せてむ。

## 二年二組

米 恋とはいつも初恋である

Ⅰ VIN 格言集より

あるHRの時間、クラス全員の希望により  
我らが担任VINに「恋愛について」など  
というお話をしていたのです。この名言  
はその時のもの。本来なら、続けてここに先  
生の失恋話なども披露すれば多くの悩める人  
々の心の糧となることを確信するものではあ  
りますが、何分「クラス紹介」という、お上  
からのお達しゆえ、涙をのんで見送らせてい  
ただき誠に相済みません。以下2年2組格言  
集より選びました。2、3の名言を、拙い文  
ではありますが解釈とともに披露したく思ひ  
ます。題して『2年2組格言解釈の方法』

米 2組の2は2次会の2である

## Ⅰ 格言その2

2組はホントに2次会の好きなクラスなの  
です。その参加率たるや、自治会祭以来、目  
を見張るものがあるのです。これはとりもな  
おさずクラスの雰囲気の高さを如実に語るも  
のであり、我クラスの、兄貴みtain VIN  
のもとにガッチリと集まった、まとまりのよ  
さは全校に誇れるものと自負するものです。

米 2組の女子は偉大である

Ⅰ 格言その5

嘘ではありません。本当に偉大なのです。  
加えて美人揃いだとは、他級の男子間で、も  
っぱらの噂なのです。これも本当。看板に偽  
りなし。(ゴリゴリ:) さてその偉大さ(も  
しくは頑丈さ)をまざまざと見せつけられ、  
男子一同驚愕の色を隠せなかったのは、体育  
大会に於る応援団でしょう。某男子君、感慨  
深げに言ったものです。「やはり平均寿命で  
男より5年ほど長生きするだけの生命力は恐  
ろしいなあ」と。なるほど一日中踊ってまし  
たっけ。他方、腰の振り過ぎだなどという不  
埒な向きもありました。「あれには少々、  
悪い刺激を受けたよなあ」(後日某男子談)  
女子のことばかり書くな、とお叱りを受け

るかもしれないので男子のことを少し書きま  
す。昼休みに「死刑」なるかなり幼稚な遊び  
に熱中しております。聞けば、2年で昼休みに  
汗を流すほど遊ぶのは2組男子だけだとか。  
やはり男子は女子に負けているのです。先  
日のバスケットボール大会のときもそうです。  
御婦人方の凄じい奮戦ぶりに、筆者は身震い  
しながらも思ったものです。「これならラグ  
ビー大会優勝も夢じゃないぞ」と。

それから、当然書くべきナントカ大会の結果  
を書かないのは、筆者が書くに及ばぬと思  
ったからで、決して「成績がふるわなかった  
ため」ではないことを明記しておきます。

＊ 2組の文化委員は怠慢である

— 却興格言

やいこら、後期文化委員よ、こんな原稿く  
らい自分で書け。筆者はこの紙面を借りて  
文化委員の怠惰を告訴したい。合掌

## 二年 三組

＊ 「ああ2年3組」— 望郷編

今日もクラスに笑いの渦が。その原因はと  
探してみると、文化祭で名優「玉三郎」と折

紙つけられた「イカ」ことM君。「クマ」、  
「境目のない男」ことE君。こまわり君にか  
ぶれ、話をする時には右手をあげる「シーチ  
ちゃん」ことNK君。修学旅行後から頭角を現  
わした「ヘータ」ことTK君。「シラケの  
○○」ことTT君。オールフイテイーのシ  
ヤッキリことHT君。野球部の主将であり  
変なあだ名を付けるので嫌がられているS・  
N君。知らぬ人も知るT・F君。「あかねち  
ちゃん」にまいてっているK・F君。クラス一の  
奇人である「ウイッシュ」ことM君。いつも  
にこやかな「ボル」ことTF君。クラスの  
誇りである「机の友」ことY君。名前が良い  
と言われるIさん、自動ドアに顔から当たった  
「オーちゃん」ことOさん。「ビー」がかわ  
いい「リコちゃん」ことRHさん。「スノ  
ーホワイト」ことKTさん。男子のアイド  
ル「ヨリちゃん」ことY・Yさん。いつも笑  
顔を絶やさない「チムラ」ことKさん。いつ  
も仲良しの4人組さん。そして「はめをは  
ずし過ぎましたナ」のT先生……しかし、  
特筆すべきことは、修学旅行の「三大笑話」  
なのです。Iその一、顔が類似しているの  
でS・N君（前記）に「ザボン」とあだ名をつ  
けられたM・I君。なんとその売値は200

紙つけられた「イカ」ことM君。「クマ」、  
「境目のない男」ことE君。こまわり君にか  
ぶれ、話をする時には右手をあげる「シーチ  
ちゃん」ことNK君。修学旅行後から頭角を現  
わした「ヘータ」ことTK君。「シラケの  
○○」ことTT君。オールフイテイーのシ  
ヤッキリことHT君。野球部の主将であり  
変なあだ名を付けるので嫌がられているS・  
N君。知らぬ人も知るT・F君。「あかねち  
ちゃん」にまいてっているK・F君。クラス一の  
奇人である「ウイッシュ」ことM君。いつも  
にこやかな「ボル」ことTF君。クラスの  
誇りである「机の友」ことY君。名前が良い  
と言われるIさん、自動ドアに顔から当たった  
「オーちゃん」ことOさん。「ビー」がかわ  
いい「リコちゃん」ことRHさん。「スノ  
ーホワイト」ことKTさん。男子のアイド  
ル「ヨリちゃん」ことY・Yさん。いつも笑  
顔を絶やさない「チムラ」ことKさん。いつ  
も仲良しの4人組さん。そして「はめをは  
ずし過ぎましたナ」のT先生……しかし、  
特筆すべきことは、修学旅行の「三大笑話」  
なのです。Iその一、顔が類似しているの  
でS・N君（前記）に「ザボン」とあだ名をつ  
けられたM・I君。なんとその売値は200

す。それに自治会祭の「リンボーダンス」、  
文化祭の「金色夜叉」、スポーツ大会全種入  
賞（特に男子は抜群）、コーラス大会の二  
次予選不参加など2・3は偉大なクラスなの  
です。2・3はぼくたちの青春の故郷なので  
です。そして「2年3組は永久に不滅なの  
です」

A・N

ああ今日も寒い。もう本格的な冬—

校門はいつてずうっと歩いて階段3つでハイ  
2の3。夏はかとりせんこう、冬の寒さは格  
別の特別室である。みんな一つになってふる  
えている。広いだけでガチャガチャで。誰か  
かたづけたいのになあと思いつつ……  
ジャッカン鈍い。「掃除しない人は差別する  
人です。そういう方はもう学校来ていたど  
かんでよろしいです」と我らの邦章先生。でも

もう2学期もおわりなんてスルドイ?

寒い世界史の授業。「フキガミ」のCG。

「今日の方」「明日の方いきましょか」「3桁の数学言うて下さい」の名物ぶつり。女子の秘かな楽しみ家庭科。それに爆笑3話の舞台九州修学旅行。ハイボースのあかねちゃん。この組織れたくないなあ私。やがてみんな自分の道を歩み始める。はい、がんばります。おじいちゃん、おばあちゃんになっても、フヘン的な心を持って、3組の諸君との出会いを大切に、さあ、はばたこう。よいいどん

K・T

## 二年 四組

我がクラスについて述べてみよう。先ずはクラスの授業風景から、一番印象に残るのは世界史のA氏であろう。彼の授業には皆熱心で、漫画を読んだり、居眠りをしたものは一人もいなかった。その上彼は昔の大手前のことや北野の生徒のことなど、我々に話してくれなかった。満点をとった人を特別扱いにはしなかった。といふ大変○○○○な先生である。ところで自治会祭では予想外の大盛況で屋前には自然消滅したらしい。これは4組の

もつ本来の消極さとインケンさである。水泳大会では、本命が先に帰ったので六位。体育祭では、くだらん応援旗を振り回したり、走り回ったりというへたくそなことはしなかった。座りながら、走っている人の顔を見て笑っている連中や、騎馬戦で○○先生(御存じ)に体あたりをやったなどという連中は、オレは知らない。その後、文化祭があった。オレの記憶では、全員がよく協力しあい、当日の劇は大成功。講堂の人口には長蛇の列が続いた。(外へ出る人で?)最前列の者達がヤジを飛ばす気力さえなくなった、というほどである。それだけではない。体育館での、のど自漫大会においての四組の活躍はすばらしくみな朝笑と非難の中にあつて、盛大な拍手をうけた。多賀谷先生の評は、大変身にしたようだった。

時は流れて修学旅行、こゝでは皆本来のインケンさにものをいわせ、その極限に達したN:もいた。(Nは過去二年、文化祭の日は全校一の早さで家に帰った。二次会など来るはずがない)メインは夜の語らいであろう。(内容は諸君も知っているように)押入れの中で暴れている二人が、○○さんのことで眠れないS君(ぼくはSに同情し、一緒に寝て

あげました。共寝)それから、女子の部屋へ頑として行かなかった三人は、女人禁制の部屋で孤独に浸った。楽しかったバスの中「人のことやと思つてムチャクチャ言うな、フニャー」(つるべより)

そうして四組は現在に至る。PTAをこよなく愛し、ジユウハチキン映画を見に行つたというような積極的な人は、まさかないだろう。欠席早退十七人の記録や、凡々のらりの雰囲気は、大手前の持つその○○○○な性格ゆえである。最後に担任は、桑原先生。人を顔だけで判断し、ザビエル、エマニエルなどと言つてはいけない。特にFとSへ。

## 二年 五組

この一年わがクラス「Ⅱ-5」に起こった種々の事件をふり返つてみることにしよう。

四月、前期自治会副会長に「Ⅱ-5」から宮前君が立候補。開票の結果惜しくも落選。しかし宮前のクラス内での人気は高まり、見事ホームルーム副会長に当選。これで万事めでたしめでたし。校外授業は、布引の滝から再度公園へ。その時は先頭を行かれる鈴木先生の健脚には驚かされてしまった。足腰の痛

みに耐えつつ無事再度公園に到着。さて問題の帰り道、近道を選んで道なき道をすったりころんだりしながらかうじてふもとへ（教訓「急がばまわれ」）しかしクラスにまとまりのできた楽しい一日だった。六月、自治会祭—みんなが不要品を持ち寄ってバザーをやった。超安値（「ダイエー」もびっくり？）で大成功大幅な黒字を記録する。北野交歓—結果はともあれバレーボール、陸上に大奮闘勝つことよりも参加することに意義があるのだ。でも来年こそ勝ちたいなあ。九月、

## 二年 六組

コーラス大会—練習の成果か一次予選を通過しかし残念ながら二次予選で失格。体育大会—応援には精彩を欠いたが各競技で好成績を収める。1500mで久保が優勝、混合リレーはアンカー石塚力走空しく第四コーナーで力尽き第三位（但し予選）etc。十月、文化祭—映画『追跡』主演—北村克司・野口克彦を製作し、短編作品『ゴリラ7』との二本立てで上映し大好評を得た。修学旅行—これについては書ききれないので省略するが、この一年における最大の行事であり高校生活のよき想い出となるだろう。

以上が、12月17日現在までにおける—15のでき事である。これからまた何が起こるか

はわからないがとにかく楽しいクラスである。

「シマッタ」と思った時はもうおそかった。別館二階の奥の奥の扉をあけると、そこにはもう我が担任「〇〇の浅野先生」（注、〇〇の中は各人で想像のこと）の御姿を見てしまった。すぐにキビシイ叱声が飛ぶ、「アホ／＼わかってるナ、そうじ一人でしとけよ」。これが六組の朝、遅刻者に対する非情なまでの仕置。しかし、このことから、我が担任を恐ろしい方と思ってもらっては困る。「いい先生だった」（ある一部の評）もあるのだ。

まあ、この一年、振り返ると、いろんなこともあったなあと思う。このクラス、本当に良いクラスであったのか。確実にいえることは、二年生全体のテストの平均点の、はるか下方を走っていたこと。（過去形に注意、現在は、もち直したという説アリ）しかし、運動面においては、バレーボール大会。すべて決勝戦までいかず、涙をのむ。が、水泳大会・全校優勝（一部女子の活躍多分にアリ）また、男子はサッカー大会惜敗の悲しみに暮

れる中で、女子は、圧倒的強さで他組を退けバスケット大会に学年優勝と女性諸氏？の活躍が目立った。（筆者はオス故に、ナサケなく思う。）

そんな六組も、四月の頃は、息苦しいような鬱囲気に包まれていた。がしかし校外教授で友ヶ島へ、我が担任以外の日本史の（名前は伏せる、知りたい人は六組まで）先生と供に行動し、自治会祭で恐怖の喫茶店で大赤字を出した頃から（男子の中では多数のつまみ食い者発生、赤字はその為という説も）和気あいあいの気分が広がり、コーラス大会で、第一次予選通過も、二次予選最下位で他組の目を気にしながら、文化祭のバザーでは、

（我がクラスは金銭を扱うことを好むらしい？）自治会祭の赤字を精算し。そして、楽しかった修学旅行では、トランプと爆笑の渦の中で狂い、その結果、我が六組特有の狂人的色彩感を生み出すに及んだ。（修学旅行の延長でトランプに狂う者も出る。筆者も含む）こんな六組だけど、一年も終わりに近づき六組の鬱囲気に染まって筆者としては、将来に多少の不安？も感じるが、やはり楽しいかったように思う。

土曜日の四時間目、担任浅野先生の世界史



の授業中、一週間の疲れが色濃くにじむ中であたりを見回せば、六組の個性ある顔が並んでいる。目をらんらんと輝かせて授業を聞く者の中で、そろそろ睡眠の時間に入っている人もあるようだ。筆者としては、彼等のおじやまをしないようにも、この辺で、静かに筆を置きたい。

我々が二年六組に栄光あれ！  
文化委員にも栄光あつて欲しい

(切実な希望)

## 二年七組

二年七組とは、いかなるクラスであるか？それは非常に難問である。「おまえさんにはわからんやろ」担任の声。そこで、CHARTに従って、これを数学的に表してみよう。まず、我々のクラスの状態を

$$\phi = c_1(\text{阿呆ども}) + c_2(\text{勉強家}) + c_3(\text{し$$

$$\text{らけている}) + c_4(\text{うれしがり}) + \dots$$

という風になる。ここで、 $c_1, c_2, c_3, \dots$ とは適当な係数である。そこで、この係数が問題になるのだが、筆者に言わせれば、係数全てが1になるような気がする。つまり、阿呆どもがたくさんいて、勉強家がそろっていて、

白けた空気がたゞよっているにもかかわらず一方でのりまわっている。そして……

という風に、まるでめちゃくちゃ、何が何だかさっぱりわからない組なのだ。

例をあげてみよう。まず、自治会祭。我々は、パンチDEデートをやったのだが、これは何とn人の観客が集まった(コワイ)、そして、それに続く、バレーボール大会、水泳大会、体育祭はすべて、名誉ある成績(上から順に一回戦敗退、下から八位、最下位)を収めたのである。これで、7組がいかにかんばり屋か納得いたゞけたと思う。一方、文化祭

コーラス大会では、軽々と一次二次予選を通過して決勝に臨み、堂々二年で一位となった。(一年には負けた。)我々にはこんな一面もあるのである。

さて、我々の、さらにもう一つの面が現れたのは、修学旅行のときであった。バスの中でみんな寝ているのに、一部の者が、のど自慢大会を開いたり、七組一同全員そろって、愚行(くさっておる)を敢行したり、夜は夜で、中国風トランプに興じる者や、果ては芸者遊び(これはやっていた者もそうだと知らなかったのだが)をする者達さえあらわれたのだった。そうして、修学旅行も過ぎ、冷

たい秋風とともに、皆が〇〇を始めた。そして現在に至るのだが、これは筆者には(に限らず?)耐えられない。

さて、こゝでクラスのメンバー紹介をしてみよう。

まず、眼鏡の奥から光るあのつぶらな(?)瞳といえは、ご存じ、自治会会長である。(この点に関しては著者に責任はないものとする)そしてあの有名な、ボーイソプラノで高らかに「ロマンスク」(注：岩崎宏美ではないゾエ)を歌いあげる方も：その他ユニークな人材の集合である。(ページ数の都合上後は省略)

そして、我クラスの担任、多賀谷先生という、最大の注意人物がいらっしゃるのだ。今日より、当分あの偉大なる容姿を拝見できぬのは、真に残念である(?)が、また三学期開始と同時に、「くさっておる」「頭、かちわってやるか」etcの美声のもと、7組の諸君たちは、日夜、勉学にいそしむのであろう。

〔結論〕めでたし、めでたし???

## 二年八組

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。その旅人も最近では並みいる高速

機関を利用するのか、その速さに筆者などはただ啞然とするばかりである。

思い起こせば4月8日、筆者がこのクラスに抱いた第一印象は、とけこみにくそうなクラスだということだった。だが、現在そんな雰囲気は2の8のどこを捜しても塵ほどもない。

2の8の生い立ちをそぞろに書きつらねてみると、まず4月 六甲へ校外教授。こんな原稿を書かされるなんて思ってもみなかったで、このあたりの記憶はさだかでない。

バレーボール大会、北野交歓。この頃の8組はまだあまり奮っていない。たゞ特筆すべきは自治会祭に於て、わが喫茶「ポパイ」が、参加喫茶店中唯一の「黒字」を出したことだ。だが、当日調理を担当した者数名、その後の「なにがし祭」では喫茶店に入る気がしなくなつたとか……

二学期になると8組は、急に頭角を現し始める。まず校内水泳大会準優勝。そして体育大会。古来未曾有の大応援旗を掲げ全員の団結（すべては前大会優勝クラス出身のK女史の活躍の賜物とする説もあるが、彼女の活躍も、筆者を初めとする勇猛果敢な男子諸君の応援のおかげと筆者は信ずる）のもとに優勝

という不滅の金文字塔をおつ立てたのだ。手締め席で我らが朝田先生曰く「参加する」とに意義があると言つても勝たなければ意味がない」まさに勝者の言葉である。文化祭。多彩なキヤストによる「被害者は誰だ」は、筆者の不安をよそに大ヒットであった。コーラス大会は音楽選択者の多さにもかかわらず「ハーモニー」よりも多賀谷先生の言われるところの「元氣」で、かろうじて青少年会館と発展する。他クラスの修学旅行記を見ると

夜と昼の行動の差に驚いたなどと書かれていて、我クラスの男子諸君の中には裏表のなさというか、昼夜のみさかいのなさに驚く人もいたのではなからうか。秋の校内球技大会。男子諸君は持ち前の長い（？）足を駆使しての奮戦もむなしくサッカー一回戦敗退。

女子のバスケットは予選リーグ全敗。我がクラスのヤマトナデシコ諸嬢にはバスケットなどという野蛮なスポーツはむいていないのだろうか。

今、大半の行事を終え、余すところ三学期のみとなり、教室は閑散としている。2の8各人の前途に待ちうける物は何か。それは筆者の予知能力の域を超えるが、すばらしい物

・付記

本文が支離滅裂で偏見に満ちているのは、ひとえに、迫る締切と筆者の先天性筆力欠乏症によるもので、現国担当の朝田先生に責任はない。

## 二年 九組

米我が最愛の二年九組

九組はチームワークの良いすてきなクラスだと思えます。裏をかえすと悪のりしすぎのクラスかも。近藤先生おっしゃるけじめが大切なので、分別に欠けているクラス。あの優しい岸田先生に小テストの際例外的にしかられたクラスであるところから見ると程度を越しているのかもしれない。

一学期～二学期中盤は大まじめクラスだったはずなのに、どうした訳か修学旅行で、そのイメージはことごとく粉碎され、いまだもって続いているから、かなり反応のぶいクラスではないのかと、これも遅まきながら気付くドンクサさ。そういえば、他のクラスのカップルは続々消滅してゆくのに我組は何故か延々と続いているなあ。くそっ（ひがみ）

一人一人に目を向けるとユニークな人が多くて、実に大まじめに見える可愛いらしい女性四人の一人がゴリラのマネをし、突如彼女の友人Kさんがわめくのだ「ジョクシン」家庭科の授業中、〇〇と言う言葉をどう誤解したかイヤラシイ笑いがヒツコクつづく。中にはまじめな人もいまして知ってか知らずかおし黙ったまゝ憐れみを含んだ目をもってそれをながめる：といった具合で先生にとってはあまり喜ばしい状態ではございませんでしよう。

特に英語の時間は他人から見れば一種のお笑い時間で著者冷静にみて(？)全く屈辱的五十分であるが、まあ清水先生に「こゝで止まりますな」と言われたN氏はさておき「かしら」のN氏にとって大まじめな解答が笑いの種になることは何とも不意極まりないことでありましょう(と同情)

古文など当たる二列ばかりは必死の顔つきで授業に参加しており、他の人の多くは他の世界へ舟を出すといった有様。物理の時間には電卓が出ると文明の利器を見たことのない多数の人から拍手かっさいがおこるのであります。(理由は別にあるのだが)さすが数学の小野先生の授業は眠る人もなく

(いやたまに耐えきれず秘かに寝る人も：)割と静かに過ぎるのです。

ところで、こう書いてくると我組というのは大まじめ大会と思われるでしょうが、そればかりではないのです。テスト前日のそうじ当番は勉強熱心によってソワジをさぼったくらいなのであります。まあジョーダンはこのくらいにして、実際のところ、テストになるとかなりひきしまってくるし、宿題もふざけた顔をしながらでもちゃんとやってくるという人の多い、考え方によればけじめのあるクラスだと思えます。

## 二年 十組

十組とはいったいどういうクラスであつたろうか。後期文化委員であるM氏は会長のA氏とこの問題について長々と議論した。

A氏「そうやなあ、初めはしらけとったんとちゃうか。校外教授なんてええ例や。それに自治会祭で『映画会』みたいなもんやったこともクラスのまとまりをおくらししたなあ」M氏「だれやいったい『喫茶室』のくじびきで負けたやつは？文化祭でもはずれよった」A氏「ごめん」――途中省略――

M氏「まあ、そんなこともあったけど体育祭ごろから活気が出て来たみたいやったなあ。それとコーラス大会、みんなへたくそながらよう歌った。おまえもな。」A氏「それから文化祭があつたなあ。『バザー』みたいなもんやったけど、わりと団結してやっとな方とちゃうか。それと中止されかかったフオークダンス。あれがやっぱりよかったなあ」

・女子の手を握った時の感触／なあ松山」M氏「だれがフオークダンスのレコードかけとったと思てんねん。クソー」

A氏「それにやっぱり修学旅行ですな」M氏「うん。それは言える。深夜のプロレスごっこ。おまえもようやれとったな。おれもやけど。それにバスの中の『必殺のどじまん大会』も。かなりみんなのつとったな」

A氏「なんで『必殺』をつけんねん？」M氏「おまえと猿山と藤井がめん君がおったからや。いろいろな意味で『必殺』やで」A氏「おまえもいれた方がええと思うが。」

M氏「うるさい。しかし修学旅行での一人者のみじめやったこと。十組どうしのカップルはできてなかったな。どういうわけやろ」A氏「うん、そういう意味で十組はおくれていたなあ。あつそうや。だれかフアンクラブ

三年 一組

ができとった男がおったけど、あいつは？」

M氏「ああ、猿か。やっぱりあいつの非人間的な個性が人気を呼んだんとかうか。それから一時、『やもめ同好会』が発足したな」  
A氏「おまえが作ったんやないか。みっともない事すんな。ところで十組というクラスは一口で言うとなんかクラスやった？」

M氏「むずかしいな。わからへんわ。君は」  
A氏「うん。連帯感というのに欠けとった。男女仲は良い方。ギャグの発生しないクラスやったなあ。しかしおもしろいやつがそろとった。まず『帰って来たウルトラマン』を真面目な顔で歌う藤井さん。あたまた越智くん」

M氏「女子では荒こも、横田、必殺塩見、小南なんかが目立とったなあ。色気はあんまりなかったけど」A氏「殺されるぞおまえ」  
M氏「そうや、われらが名誉会長せんみつも忘れたらいかな。やんちゃ君にいつも髪の毛いじくられとったな。それとあご君も」

(厚生委員の声)「みんな掃除して帰って下さい」M氏「またゆうとる。しっこいなあ」  
「かくして三時間にわたる会談はおわった。こゝで文化委員より最後の言葉。」

「唯一の知恵深き神に、十組と岩崎宏美のために、栄光よ永遠よりも永遠にアーメン」

過去一年間におけるイベントシリーズ(その一)HRで通り抜けへと出向く。担任が度

重なる失敗にもめげず、700円も費して緑亀すくいに奪闘。以後三十一構成メンバーに亀一匹加わる。特記その亀いと鮭好きなり。(その二)比叡山へ遠足。上からの落石が激しくこけてすべってころんで頂上に着くこと午後5時。(その三)女子十人のダンス創作。レィシングカー及人形になりきる為、日夜練習に練習を積み、ダンスの合間を縫って授業を受ける。最上の出来であったとは、乙女達の信ずるところである。(その四)中間テストが終わったある放課後、三〇一教室にはコーラにおせんが並ぶ。宴の会には非らず、クラス平均点の学年平均との差十点克服反省会なり。この効果については知る人ぞ知る。(その五)体育大会。可憐なセーラー服姿の女子衆及び諸様の黒装束に白樺、白鉢巻、下駄ばきという若衆の力強い、三、三、七拍子。でかんしょ。鉄腕アトム：競技成績にかかわらず常に誠意ある応援を指導したり氏に深く敬意を表すものである。(その六)文化祭『狭い門』上演。受験勉強のために押し隠された

人間像を描く事に成功。殊に主演H氏の汗だくの芸に感動しない者はなかった。(その七)

コーラス大会。テナーのエーエンヤエーエエンヤエーエエで始まる最上川舟唄。民謡であるという点に難が感じられたが、二位という高成績におわる。F嬢のタクトの逞ましさに、ある者は涙し、ある者は笑った。(その八)秋の遠足。直径20cmもある三笠おまんを食べたことと、鹿で儲けてる鹿せんべい屋のおぼはんが、鹿を追払ってたこと、万年会長、功労者N氏のクラゲ姿しか覚えていない。(その十)G千林手書出版小社発足。きっちり文字でシケボンがプリントされ、我クラス日本史平均20点増(予定) (その十一)枕詞の発達。各人の名の前に、その人を連想させるような語句を添える。中年K、陰険T、ハンダのT、後家殺しのKなど口にするのもおぞましいような且つ名前を明記してしまいたいような： (その十二)政経の試験、最後の問題に毎回登場するA君。あれは何を隠そう我クラスのI氏だったのだ。(その十三)サッカー大会優勝。中学ではサッカー部だったT氏の素晴らしいコーナーキック、足が空回りして体が地に飛び、ボールは微動だにしなかった。今もはつきり思いおこせる。

(付録) 日本史クラスでありながら、世界史を愛する者が多く、K女史を悩ませてしまった。

### 三年 二組

懐日談を一二〇〇字で綴れ、と言われてもそれは殺生な・ぶっちゃけた話が、今まで余りにも平穩すぎたため、回顧するにも感覚が完全にマヒ状態なのです。そう言ったクラスでした。御存知「直撃広瀬」で知られる広瀬勝氏をはじめとする女子二十九名、男子一七名の文化系クラスで、その手弱女揃いの桜の園は、風雅を愛する某御仁にとっては最高の楽園であつたのです。通例、文化系というのは女子が圧倒的であり、そこを狙って野郎どもが種々雑多な企みをもって集まるとか言いますが、萬年不作揃いの大手前では少数男子の略奪的目論見も忽ちにして空中分解し、果

無き夢想と化してしまうのが常のこと。二組も御多分に洩れず、誠に失念に絶えないので(ドスッ)ウグッ(筆者の喘ぎ)……ああ、こんなこと書かねばよかった。グスッ(筆者涙ぐむ) 入試も目前に控える身なれば慎重に慎重を期すべきだった。肉体的に私の体は

ボロボロだ。手弱女などと讃めちぎったのが失策でございました。男女間の肉体的ハンデイはスポーツ諸大会に於いて顕著に表われております。女子は常に決勝進出・それに引きかえ、男子連、サッカー大会こそ偶発事か無欲の勝利が知らんが決勝進出を果たしたものの、他はすべてシャットアウト。完敗でございました。将に文化系クラスの典型なのです。(このあたり女子に対する畏怖の念にさらされていゝ) 本当にアカンタレの野郎共にとりまして、御婦人方の存在は大きいございました。

さて、例年、三年生になると勉強の進度にクラス間でかなりズレが生ずるものですが、二組の場合、他に抜きん出た存在(?)でした。新課程最初の受験生とあつてえも言われぬ苦痛、不安がつきまとい勉強一途の路線を歩むかと思えば然にあらず。非常なノンビリムードがすぎて、考查の度に担任を嘆息させ心痛の極度に追いやったとか。学業での劣等感というものは常に何かでカバーされるものです。自治会祭での「蠟人間館」、文化祭でのシリ

れる人々」では、生体解剖をめぐる二青年の心理的葛藤を巧みに描写し二組芸術の崇高さを裏付けましたし、上演に至るまでの四十六人の苦労話も数知れず生まれました。連日汗血にまみれる猛特訓が開き本番では、見事大成功を収めたのです。幸い心配していた大前流ヤジリもなく演技陣も一部を除いては完璧に近い出来でした。

以上のように書きますと非常に積極的で多少浮わつた面もあるユーモラスなクラスの様子に思えますが、筆者の主観的観察によりますと、扇動家に備する人物の不足が安定したクラス繁栄を阻止した最大の原因だったので

は?三年という他学年とは多少異なつた状況下に居りました。が、もっと最後の一年の多くの形でエンジョイするように各人が努めるべきじゃなかったでしょうか。今更:の思いにとらわれつつも、やはり悔やまれます。

### 三年 三組

今年も将に暮れんとし、街に木枯しの吹き抜ける頃となつてしまつた。私達も遂にこの大手前を去る時がきた。このスプリング一冊を残して……

(ためいきより抜粋)

三年四組

諸君は毎日の生活を悔いのないよ

うにエンジョイしておられることであらう。しかし、大手前生である以上、多かれ少なかれテストが気になるのではなからうか。

そこで我々は諸君の不安を一掃（一掃）せんがために幾多の苦難を乗り越え、極秘のうちに「来年度試験原案」なるものを入手、ここに独占公開する次第となった。諸君はこれ

を完全にマスターして、絶対の自信をもつて試験に臨み、赤点：とらんとつてなゝ

問 次のカッコの中から適当と思われるものを選びそれをマークせよ。

○三年四組の担任は(イ)近松 (ロ)近松 (ハ)近松)氏である。

○三年四組は文系クラスであるが(イ)女が強い。(ロ)男が弱い (ハ)女はいない)

○三年四組の人間は、朝は(イ)8時37分に予鈴が鳴る (ロ)いつ登校してもよい (ハ)出席

-30-

簿に載ることは名誉だ」と思っている。

○三年四組の成績が学年一すぐれていないのは(イ)教える人(ロ)教わる人(ハ)運が悪いからである。

○三年四組が明るいのは(イ)みんなの性格(ロ)開き直り(ハ)螢光燈のためである。

○大手前高校は(イ)大阪の知恩院(ロ)超超近代化校(ハ)官庁街のスラムと言われる。

○大手前の食堂では(イ)ラーメン大(ロ)お茶(ハ)胡椒がうまい。

○大手前生がすばらしいというのは(イ)伝統(ロ)校風(ハ)ウソである。

米「三年四組の足跡」編

○自治会祭で行なった喫茶店では(イ)安くてうまいことをモットーに(ロ)前の客の食い残しを出して喜ばれた。

○体育大会、水泳大会では(イ)全力(ロ)謙讓の精神(ハ)怠慢を出し切った。

○コーラス大会で全校優勝したのは(イ)二組(ロ)五組(ハ)中塚先生のおかげである。

○文化祭で演じ、大好評だった木下順二の戯曲は(イ)夕鶴(ロ)白鶴(ハ)仁鶴である。

○二次会の余興で、ヒ子さんは、一糸(イ)みだれず(ロ)まとわず踊った。

○をのこどもが最もしばしば寄り合うのは、

(イ)図書館(ロ)府庁食堂(ハ)王将である。

米「三年四組のこれから」編

○めのこどもは、将来(イ)良妻(ロ)賢母(ハ)女になるだろう……か。

○我々はいつの日か、三年四組にいたということを(イ)懐しく思い出す(ロ)感謝する(ハ)後悔するだろう。

以上

○付録

筆者のひとり言(受験生ブルースの節で)勉強ちっともしないで、こんなもんばっかり書いてるから、来年もきつと書いてるだろう。予備校スプリングを！

### 三年五組

米プロローグ

名もなき気球のスピーチ

10月5日 雨あがりの大空に僕は舞い上がりがなかった。どうしても彼らの期待に僕は応えなかったんだ。しかしながら、僕の巨体は2時間近くの間、力尽きた。僕の体は、確かに立った。しかし、彼らの苦勞に対して顔向

けができない結果のように僕には思われた。

が、驚くべき事に彼らの顔に一点のくもりもなかった。そうか、彼らはやったんだ！47人のありつたけのエネルギーと財力と能力を持

って。誰も知らなくとも僕だけは知っている。慣れない手つきでミシンを踏んだ彼女たち、

コーティングでこんにやくだらけになった彼らの苦しみを情熱を。僕は、そこに青春の本質を見た。人間の本质を見た。

△本文らしからぬ本文 一 雑文 一

理系世界史クラス(構成…やんごとなき姫11人野郎方35人いとやさしさ師1人)と言え

ば過去の大手前においては、受験戦争の象徴であった。しかし、学区縮小による為か新課程入試の為か、5組は文化祭に受験生らし

からぬ膨大な計画をたて、実行した。まさに奇跡に近いスピードでの気球の誕生。合唱コンクールでの優勝。4月の大原遠足以来、たゞ

ひたすら平凡なる様相を呈していたこのクラスはどこにそんな力があったかと驚いた次第。

4月のバレーボール大会以来、体育大会(不思議な事に学年優勝全学年準優勝をとげる)

以外のクラスマッチでは、勝敗を返りみず見せ場を作る事に徹し、5月の自治会祭では露

店(金魚すくい 輪なげetc)を経営、かなり

の成功を得た。話は変わるが、五組での日常生活には、私の好きな暖かさがある。どこことなくみんなおとなしくって気まじめで（目立つ人もいないわけではないが）俗に言う人のよすぎる集団ってところだろうか。それに、文化祭によって得た同族意識は、案外根強いもので、様々な友情がクラスに散らばって輝いているようだ。

### 三年 六組

別れをくり返しながら、旅に疲れた若者は、道に倒れるかもしれない。しかしきつと一人で起きあがって歩き出す。だからきょうは、勇ましく歩き出そう。時代はめぐる。喜びや悲しみをくり返しながら。

△4月 芸術も必修クラブもないハード時間割で授業開始。HRで自己紹介行なわれる。

△5月 校外教授、京都大原大仙院でへたり込む。坊さんの話に喜んだ者、若干。

△6月 自治会祭 風船の高価に驚き。

△7月、8月 毎日〇〇先生を拝みに行ったよ。

△9月 水泳大会 参加点もらう為にがんばったもんね。体育祭は、男女でやる楽しい競技に高得点、2次会で本性を暴露した者多数

△11月 アチーブ5組不振 来回こそは

△3月 ミンナノ、セントウヲ、イノル

＊エピソード 15組解散のレクイエムー あんな時代もあったねといつか笑える日がくる。そんな時代もあったねといつか話せる時もある。だからきょうは、希望を胸に未知らぬ世界へ旅立とう。地球は回る。出会いと

嗚呼、第三学年六組。移ることなき哀愁の香り漂う日々。花薙じらう二十九名の乙女たちと、そして若干名のextra、忘れてはならぬ筆者。プロフット、いやバスケット選手を先頭に見事、優勝の冠を勝ち取った。

シュート王（得点王に非ず）、ヘルドの神様等々の魔女と、一回戦で負け、二回戦で敗れながらも、あくことなき勝利への執念に炎と化し、遂には見苦しくも燃え粕となった夏の勇者たち。新学期の始めには、まだ時折顔を

見せてくれた羞恥心たちは、春の遠足には影も形もなくなってしまった。しかし各自精一杯の自重をもって、翌日の新聞を賑わさずに済んだのはまだ不幸中の幸いでした。貴方たちには、重要文化財も立ち入り禁止もあったものではないのですから、座王堂の屋根が高すぎて、ボールが届かなかったのも幸いした。

自治会祭では「公開お見合い番組」などと筆者まで引っぱり出され、カップヌードルの食べ過ぎで精神に異常をきたしたのです。

そうして、その体制維持のまま夏休みを通りすぎ、遂に体育大会、文化祭、と華やかにして忌まわしい、急激な大変動を迎えました。男子の諫止と呪咀の叫びを振り切り、行なわれた魔女の行進。今もあのCMを見る度に座布団で耳を覆う（M君もそう申しております）た。筆者なのである。

ニセ監督二名（不肖筆者も含む）のメガホンの下に四十数名が燃えた。打ち込んだ、芥川の巨編は、曰く「不可解」の絶賛を浴びつ幕を閉じた。

そして、ああ、マッチ棒劇団「ボロボロ」マッチ棒における人形芝居という革新的な着想のもとに発足したこの劇団は、団員二名。その二次会の宴席をかげめぐっての巡業公演の興奮と熱狂。幻想と無気味のうちに、「アホらしい」という団長の引退宣言、解散へと事態を進めました。しかし、「野を駆ける白いウサギのように」等々、数々の不朽の作品群への郷愁と回帰は、その後もなお、人々の心を捕えてはなさず、ついには、その直後行なわれた役員選挙で元団長が会長に選任され



るに至ったことは余りにも有名である。この一連の「ポポロ劇団事件」を見ていたとせば、我がクラスの実態というものが、容易に理解されるものと信ずる。「アホらしさ」に対する異常な信仰と最終的な覚醒。そういった意味で、ポポロ団長の引退宣言は非常な名言とされている。それ故、もう三ヶ月で三年もおわろうという今も、六組には緊迫した血走りが無い。むしろ間延びがある。筆者は、この弛緩をこよなく愛しているのである。

最後に、期末テストの真最中に、不肖筆者に、この原稿を書く栄光を押しつけて行った女子文化委員、クラスの皆さま、私個人のために再三締め切りを延ばして下さった自治会本部に、心からのお礼を申し上げます。  
―最終締め切り二十五分過ぎ(筆者)―

### 三年 七組

理科系クラスの宿命とはいいいながら、この男女比、なんとかならないものでしょうか。一度ならず二度三度、6組8組に逃避旅行をしなければ、学生服の黒々しさに、いたたまれなくなってしまうものです。  
はじめの一ヶ月二ヶ月の間、席がえのたん

びに、女子の陣地は、かたすみの一角、やっとな慣れたと思うと、〇〇大会に、負けるために出るようなもんで、男子のせっかくの応援を無にし、さて今度は男子の応援と思つてはみるものの、文系の女子の物量作戦に圧倒されっぱなし、声だけでもとがんばれば、のどはからから。化学の実験ともなると、何にもわからないで、専任の試験管洗い。

中び連に頼めば、少しは、ましな状態になるでしょうか。こうかけば、随分、虐待されているみたいだけれど、本当は、やさしいやさしい野獣たちなのです。母性本能をくすぐるようなあどけない一面もありますし(たとえば突然、自習の時間に「グンカングンカンハレツ」なんてやりだしたり、おはじきに興じたり)それに、文化祭の時のエプロン姿そりゃもう、素適なものでした。

そういえば、フアイヤーストームの時は、悲惨でした。これが理科系クラス一番の悩みのたねなのです。クラスごとの輪ができる、と、パートナーなしの男子の方が、多いのですから、たまりません。一回目は、8組が泣き、合同してくれたものの、二回目は、すげなく断られ、2、4、6すべて渡り歩いて、結局は、単独で輪を作ることになりました。

それでも、他のクラスに紛れ込むものもありますし、あきらめて、指をくわえて見ているものもありますし……。余った時は辛抱強く順番を待っていらしたようです。

個々にみていきますと、授業中に逸話が、多いのです。あれは、黒田先生のCGでした。普通、知らない単語をあてられると、わかりません。そう答えるものです。ところが、〇〇君「あの、ちょっと、今のところわかりかねますが」。もちろん爆笑を誘い、その上〇〇君は、黒田先生から「大人物になる」という、おすみつきまでもらいました。政経の時間にも、こういうことがありました。××君は、政経の本にかくして「ガキデカ」を読んでいたのです。そして、ニヤニヤニタニタ：一田先生、皮肉たっぷりに「政経の本、そんなにおもしろい」。って。

最後になりましたけれど、担任の広田氏のことも、書き加えておきます。すごくいい先生です。何しろ、わがクラスの女の子の中には、ファンがいるのですから：



三年 八組

三の八の声を伝えて行くことにする。

「さてと…… 中井俊明」

「バンザイ／バンザイ／ 卒業のつもり」

「偶然会った三の八の人たち、今では私の思い出の一つ」

「卒業できる記念に一言：あつ／ やまぐちしずこ」

「卒業させてほしい／ 築山恵美子」

「太い足の女の子は強い母になれるって：」

「玉村さんお元気ですか。悪徳会長」

「私の目の前の大学の門には鍵がかかっている。」

「青春は美わし、そはもはや来らずー ヘッ

セー 黒田良司」

「ある男の子と女の子へ： 冬は寒いです。

コートを着ましょう。学参で彼は光っていた。

ふーちゃん&タエの巻」

「三年生って、どこもこんなクラスなんかなのらん、のらんと言っているうちにもう終わ

り。」

「今なら言えます、早く人間になりたかった

。 吉田勝彦」

「私には三の八の香りが、せつないのです。和子」

「文化委の怠慢め／ こんなん書かせて

⑩。」

「あの日に帰りたい。 織田稔」

「めざせ予備校一期校 啓」

「国鉄のスト反対・私的のスト賛成・学校側はストの不当差別を撤廃せよ」

「しょうじょうの面より赤点成績表」

「粹な別れに煙草はいらぬ。黙って煙になれ

ばよい」

「まん丸顔の女の子はいい妻になれるでしょ

うか。 ひとみ」

「おっさん元気が今年は 歳になるのでチュ

インスマーキングにも気をつけて／」

「おかあちゃん土佐堀だけは行きたくないヨ

ー フジゲン」

「憂いに満ちた三年間：： 教学 お蝶」

「はやくこいこい入学式」

「このスプリングができるころ、私は何をす

る人ぞ OBB」

「求めつづけて三年間 とまと」

「一寸先は闇／ 真美子」

「大学へ行って欲望をはたそう 藤内」

「最後のテストもおわり、さみしいい

宗子」

「やさしさはそんなに甘いものではありませんね」

「つぶせ自民党金権政治 全日本学生自治会連合」

「ねむたいでしゅ ある没落大手前高一期生」

「やっと念願の卒業ができそう／」

「自己抑制は結局ウソになる」

「卒業とはなんと悲しく辛いものなの」

「ついに〇点とっちゃった／」

三年 九組

私の名は、三年九組。九人兄弟の末子として生まれ、そのまま人里離れた『金魚鉢』という所に預けられてしまいました。これも末子の宿命でしょうか。当年とていまだ一才に満たず。そして又、一年以上は生き長らえない星のもとに生まれました。私は、四月生まれですから雄羊座。ちょっととした情熱家です。

姓名判断によると、みえっぱりで、お人よし他力本願、遊びつきで、それがもとで身を滅すとか。これはなるほどの得ています。もちろん、金魚鉢に住んでいるからといって

私は金魚ではありませんし、金魚ほど典雅でもありません。つまり、私は、れっきとした四十六人の集まり。彼らあつての私なのです。性格は、極めて穏やか。でも困ったことに、

私は二重人格者、ジギルとハイドなのです。

私の心には、「文系」という感情と、「理系」という相矛盾する感情が潜んでいるのです。

前者の感情が表に出れば、陽気でノンビリ、反面チャランポランでエエカゲン人間に、後者が表に出れば、マジメで理的、反面融通の効かないコチコチ人間に、といった具合なのです。

でも、いつもはうまくとけあつて、私はこれでも人あたりの良いので評判です。成績も中の上(?)といったところ、はっきり言って、得意科目はなし、不得意なのは、古典でしょうか。

でも、もう少し先生が長く授業して下さったら、少しはましだったかもしれないのですが……(このあたりに他人为本願の悪いクセがあらわれているようです)。体を使うことはいっさいダメ。ましてスポーツなんて、私は生来ドンなんでしょう。

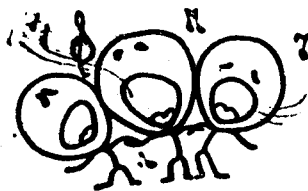
あ、それから、私のめんどろを見てくれるのは黒田先生です。職業は英語のセンセイ。

趣味は、誰にでもソウジしろと言いつけることのようなです。私は、生まれつきソウジは大嫌いです。これも末子として甘やかされたからでしょう。

ところで、本来ならば文化委員がクラス紹介することになっていましたが、彼は察する所書く気もないようですし、文才もない所から判断して、私がそのかわりに自己紹介を書きました。でも、結局は同じ事になったようです。

こんな書きっぷりでは、三年九組のことなんて全くわからないでしょう。又、たかが三枚の原稿用紙で、美辞麗句を並べて書き尽くせるようなクラスが、いかに虚しいものかは言うまでもありません。中途半端に理解されるくらいなら、いっそのこと何も知られずに身内だけで楽しみたい。案外この辺に、混合クラス九組の本質があるのかもしれませんが。私、三年九組の余生は後わずかです。もうじき「受験」という殺人鬼にバラバラに殺されることになっています。これも運命でしょうか? ともあれ冥福を祈って下さい。

一同合掌



# 先生の紹介

## 荒井昭雄先生

ラグビー部の栄光を支える名顧問であり、学校の集会のすべてをとりしきる集会部の顧問というのが、荒井さんデハナクテ、荒井先生の肩書きなのです。黒くて、たくましくて、いかつい顔をなさっていて、『怖い体研』の構成要素となっておられます。と同時に、『芸人ぞろいの体研』の構成要素にもなっておられるのです。その例としては、文化祭でのことをあげることができるでしょう。先生は、某クラス主催の講堂行事「被害者は誰だ!!」に出演なさって、人生の下り坂と思われる年令にもめげずに、砂のいっぱいはいったバケツを平然と持ち上げられて、敵の六名をまんまと欺かれたのです。

ところで、先生には御子息がひとりおられることを、読者諸氏はご存じでしょうか。ラグビー部のキャプテンである栗川氏（仮名）曰く、「あの先生、しょっちゅう子供連れて来てるで。いつも砂遊びしてるねん。夏になったらプールのホースで水のかけ合いをして遊んでる。荒井先生は相当な子煩悩やから、あの子と一生砂遊びしとっても飽きんやる」とのことでした。故に、庭野先生と共にこう言えるのではないのでしょうか。『子煩悩の体研』の構成要素と。

## 上総良雄先生

|      |      |      |
|------|------|------|
| 荒井先生 | 上総先生 | 河瀬先生 |
| 阪本先生 | 清水先生 | 竹田先生 |
| 近松先生 | 高山先生 |      |

上総先生は（わたしたちが常日頃苦しめられている？）物理の先生なのです。顔の形は、卵の少し角のあるような感じで、茶色のふちのめがねをかけていらっしやいます。そして、物理研究室のいすにどんという感じではないけれど静かに坐っていらっしやるのです。先生の授業は、どちらかといえば、穏やかです。話し声がすると「おい、そこ何してるんや、ちゃんと聞いとけ」とおっしゃいます。また、教卓の上で先生が実験してくださる時、たとえ失敗されても何度もやって、いい結果が出るまでやって見せてくださいます。例をあげれば、レンガをのせた二つの台車をぶつけて、その後の変化を見る時、うまくいなくて、十五分もかかったことがあります。最初、笑っていた人も、その熱心さに感心して真剣な顔に戻ったのです。わからない問題があつて質問にいった時は、たいへんていねいに教えてくださいます。授業のすみ方は速いようです。なぜなら、定期テストの一週間ぐらい前には、既に範囲を終わっているからです。あとは、問題集をやってくださいなのです。

もう一つ、先生は、自治会の顧問でいらっしやるのです。いつも選挙前になると忙しくしていらっしやいます。（理由は、読者には

既におわかりと思う。(先生にできるだけ手数をおかけしないようにしたいものです。

修学旅行では写真もとって下さったし……優しい先生なのです。

## 河瀬もゝ子先生

只今、二年一組の担任、と言うよりもマスコット人形。また当校名物(?)文芸部の顧問でもいらっしゃる。年齢は女性の故、秘密。とは言え、とにかく独り身。あの持ち前の可愛らしさをもってして楽しい授業を持ってしてか、男子生徒のアイドル的存在でいらっしゃる。一見おっとり風だがところがどうして中味は非常にてごわそう。

担当は現国。前述の通り、授業は楽しく、おおらかに、かつ夢をもってなさいます。

かく言う筆者も一年の頃、もゝ子先生に教わり、その折に聞いた、少年と少女がそりに乗ってドウノコウノという物語が忘れられないのでありますが(詳細は直接もゝ子先生に)……この先生、なかなか話せまして、文化祭の映画には出演して



くださる。風上げには喜んでたこ糸を持って大阪城を走られる。コーラス大会の練習には参加なさる。球技大会には、いざ出陣と、生徒と共に大活躍。素敵な先生であります。

最後に、これを読まれる方々に注意をひとつ。

先生のお名前は、〃かわせモモコ〃と読むべきなのであって、決して〃かわせモテンコ〃とはお読みになりませんように。

## 阪本千秋先生

阪本先生と言えはまず思い出すのは、あのシルクハットと真黒なコート。皆さんも一度はあの姿を見た事がありでしょう。あのシルクハットは最近ではあまり見られないもので電車の中で人にジロジロ見られるそうです。人にジロジロ見られようが、いっこうに気にしていないと先生はおっしゃいます。私もあのスタイルはステキだと思っています。

先生は国語教師でとっても優しい先生です。顔の感じが何となくキューピー人形を思い起こさせるような……授業中について言えば回りを見渡すと無我の境地に陥っている人があちらに一人、こちらに一人。私は時々その人達の様子をながめてはそれを楽しみとしているのです。先生はよく黒板に絵を書いてくださいます。まるで童話の中のさし絵のようなかわいい絵です。その絵を見ることもまた楽しみです。

阪本先生の時間はあまり当てられないのでのびのびとしていられます。数学などで張りつめた気分がゆるむので眠ったりする人もいますが、どうか許して下さい。最後に居眠り常習犯に代って一言お

詫びしておきます。

## 清水泰樹先生

『清水泰樹』それは、天下の天王寺高校より、我等の大手前高校にやって来られた『青鬼』の本名なのです。先生は、一年英語科の○先生、二年数学科の△△先生、と共に三鬼を形成されていると言えるでしょう。あだ名としては、青鬼の他には別段ないようです。ただ、前述の△△先生が清水先生のことを「となりのおっさん」とおっしゃることをみなさんの耳に入れておきましょう。

「とんでもありません。何言ってるんですか」「これは愚問です。全くの愚問です」などと、東京式発音の低音でおっしゃられるのが第一の特徴です。第二の特徴は、C Gのクラスの者がいたためつけられている追試があることです。筆者は受けたことがないのですが、（筆者はC Gは百発百中の岸田先生に習っているから）クラスの約半数が一度にそれを受けるのだそうです。他に特徴としては、欠課の者がいて前列の席が空席となっていると、先生はその机の上にすわられて授業をなさるときがあります。普通の時は、前から三番目の机のところで説明なさっています。（常に筆者の横にいらっしやるのです。おかげで筆者の机は、リーダーの授業が終わると、チヨークの粉でよごれているのです。）

最後に清水先生について一言でまとめると、鬼と呼ばれる豪傑の血と、すぐ赤面なさる純情可憐な乙女の血を合わせもっているジェントルマン、これこそ清水泰樹先生なのです。

## 竹田紀子先生

竹田紀子先生・旧姓山本紀子先生は大手前高校唯一の音楽教師なのです。いつも音楽室に一人なのでさびしいとおっしゃっています。この前などは、「音楽室は出入口が一つなので悪い人が入ってきたら逃げようがない」などとおっしゃっていました。私は先生ならば大丈夫だと思うのですが：：お菓子でも出していただけるのでしたら足しげく通わせていただきます。けれどもそういう事は望めないようですので何もなくても先生に会えればそれだけでいいとおっしゃる方がありましたら、どうぞ音楽室へあそびに行ってください。

ところで先生は結婚なさってもう少しい年になれますが、赤ちゃんの方はどうなっているのでしょうか？というのが皆の話題となっています。先生のどんな様がどんな方かは知りませんが、先生のお子様ならばきっと音楽的才能のあふれた、男の子ならばベートーベンかシューベルト、女の子ならばバグジュースカかうわさされるようになるのでは：：（かなりオーバー？！）

先生は私達のテストの前になると時々休んで自習にしてくださいます。そんな時私達のようにぎりぎりになってからあわてている者にとって先生は神様のように思えるのです。これからは時々ではなく、テストの前日はいつもお休みになってはいかゞでしょうか？最後に一言。どんな様によりしくおっしゃって下さい。

## 近松 淳一 先生

私達は、日本史の授業を楽しみにしています。それは、近松先生のおもしろくて、そして大変貴重なお話を聞く事ができるからです。だから、この時間は、ほとんど眠くなる事がないのですが、時々、真面目な授業に入ったとたん、こっくりこっくりなんて事になるのです。(先生ゴメンナサイ)

初めのうちは、先生の詭弁術(?)によって我々は随分悩まされたものです。つまりどこまでが真実のお話なのか、判らないのです。でも最近はその詭弁を聞く機会が少なくなり残念です。

先生は、旅行が大変好きだそうで、大手前の先生方ともよくお出かけになるそうです。そんなある時、ある旅館で女中さんが、先のお名前を「キンマツ」と呼んだそうです。先生も初体験だったようですが、ケツサクですネ。

先生はとても優しく、お父さんという感じの人です。(特に女子には)私の修学旅行の時にも、わざわざ新大阪駅まで、見送りに来て下さって、旅行かばんを持ちたりして、私達に気軽に声をかけて下さいました。

先生の好きな物がもう一つ。それは、「活動写真」つまり無声映画。鳴野大劇には毎月かかさず通っているとか?いかにも先生らしい趣味ではありませんか。

最後に、いつまでも親しみ深い先生でいらっしやいますように、

## 高山 邦章 先生

一目してわかるように、大手前独身三羽ガラス(中村 田中 高山各先生)の一人。化学及び物理の担当でいらっしやる。

どことはなしに頼りなげなものしぐさ、弱々しいあの表情：etc、それらのすべてが、高山先生の魅力となつて一部の女生徒の母性本能を少なからず刺激するらしいのである。

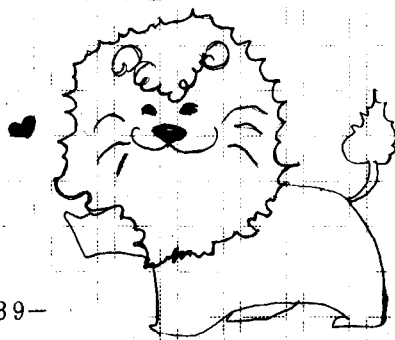
授業中、生徒がうしろで何をしていようと、決して大声を出すことなく、黙黙と(?)授業をなさる。

化学教室の使えぬ日は、実験器具を両手にかかえ、危なっかしげな足取りで教室まで運び、教卓の上で実験なさる。実験が終わったあとや、チョークを使ったあとなどは、必ず手を洗い、必ずたたまずにポケットにつこんである黄色のタオルハンカチで手をおふきになっていたけれど、アレ今は何色だろう。

「：アノ、静かに聞いて下さいヨ：」、アノ、危ないですから氣をつけて：」この甘い忠告の声は、一度たりとも聞いた者にはか理解できない。

物理の授業にいささかの悪名を背負っていらっしやるにもかかわらず、毎日、変わることなく授業をなさっている。

(今年の先生紹介のスペース少ないなあ、ブツブツ：：)



# クラブ紹介

## 男子ソフトボール部

数年前のスプリングを繙いてみると、あった。あった。「ソフトタッチのハードなスポーツ」と。そう言われてもあんまりピンとこんやろな。老若男女を問わず誰にでも出来るスポーツでもあるもんなあ。

まあ、ちょっと説明しとくわな。大阪府の登録数は男子20校弱、女子はなんとその4倍強（これやもん、女のスポーツや言われてもじゃない）。春、夏、秋に各一回大会があつて、春の大会ではインターハイ、近畿大会への道が開け、夏の大会では優勝チームを中心に上位4チームからの選抜チームで国体へ（おしかった。あと一つ勝つたら我がチームから誰かが）。秋の大会、これは部別大会やねん。今年は、なんでか第三位（二部）の表彰状をもろてんや。

話は変わるけど、少し同輩について。（後

男子ソフトボール部 硬式テニス部  
女子バレーボール部 写真部  
新聞部

輩がおらへんね……まず、プロレスラー・ライオン北村、彼には関口淳もまっ青の弟が。次に、アニキ、彼は普段の姿からは想像でけへんけど、一度サングラスを掛けると、……熊五郎、どうしてか、我ら独身者よりも小指が一本多いねんなあ。そやけど、近頃おかしなつてきて、我らのアイドル必殺遊び人（もちろん男やで）をめぐってベテンスと激しい争奪戦を繰り広げとるわ。そして、ベテンス、なんとも言えんな。遊び好きな男やけどな。最後に、最近婚約した、あの小野田さんも、仲間やねんで。

## 硬式庭球部

我等が硬式テニス部は、”大手前に硬庭あ

り”とその名を広く知られた、伝統と実力を有するクラブです。

毎年、府下ベスト？へと進出する栄光の影には、日々の苦しい練習が積み重ねられています。軟式と共存のため、一日おきにしかコートが使えないというハンディを背負いながら、コートの日には、朝練、昼練、放課後と十分に活用します。また大阪城の必殺トレーニングの日でさえも、昼練のバレーボールやサーブには多くの参加者があります。ここでもよつと、大阪城トレーニングの説明。まず、堀のまわりを走ることから始まります。コースは外・外・内の三通り。これには足腰の強化の他、根性をつけるという大きな働きがあります。それが終わると、体操、柔軟、腕立て、腹筋、ダッシュ……etc。これに耐えてこそ、大手前の硬式部員なのです。

しかし、硬庭は厳しさだけではない。理解ある顧問の先生、優しく(?)技術の指導をしてくださるOB（練習のあとには楽しいOMMでの一시가……）に見守られて、男子の仲間も大手前、随一。コートのサイドでは、男子が女子に、アドバイスをするという、なごやかな光景が見られ、これこそクラブだ！と感じさせられるのです。今こそ決断の時、白球が



コートが、あなたを待っています。

## 女子バレー部

「軟式バレー部」と呼ばれている。果たしてバレーボールに硬式と軟式の区別があったのかと疑う人は、男子バレー部のどなたかに聞いて下さい。そういえば中学の時もよく「タマツキクラブ（ビリヤードではない）」とのしられたもんだなあ。でも、毎日シコシコとやっておるのです。

現在、バレーボールは強いところから一部二部、三部とランクづけされていて、うちは四部である。もっとも三部以上の学校はわれらのことを「部外」と呼んでるけど。この秋三部昇格をかけたトーナメントで決勝まではいあがった。フルセットの末、おしくも負けしてしまった。続く敗者復活戦も勝利を目前にして、大逆転負けに終わった。今年の夏は合宿までして頑張ったのになあ。たのしいたのしい合宿を……（オエッ）

ところで現在一年が十三人いて、今年度退部者がひとりもないのです。みんなひたすらやっています。というのも雰囲気がいいせいなのです。いやそれとも先輩がいいのかな

（キヤッ？）とにかくみんな仲よしこよしなんです。

それでは、今年の体育大会でクラブ対抗バレーに参加した時のお話。二年の一部に、パスをしながらトラックをまわろうか、回転レシーブをしながら一周しようか等という声：サーブカットをしようか、スパイクを打とうかとかいってはしゃいでいると一年が、先輩のむからそんな恥なことはやめて下さい（決まり）

最後にあつくてたまらない夏休み、お金のからない避暑の方法教えます。学校に来て女子バレー部のワンマンレシーブを見なさい。きつと涼しくなるよ。（いろんなイミで）

## 写真部

写真という趣味は、面白い面白くないは別として、とにかく自分にとって為になる趣味である。写真には二つの大きな利点がある。

一つは、趣味として適当で健康に良いということ。別に体力がつくというわけではないが勉強の合間にするものとしては最高であろう。カメラを肩に下げて、ぶらりと散歩に出る。何も奈良や京都に行かなくても、身近な所

に被写体はいくらでもある。適当に絵になると思えばシャッターを切ればよい。実際、コンテストに入選している作品に、一見ありふれた感じの、例えば老人と老婆が手をつないで歩いているといったようなものが実に多い。第二に、友人が増える。同じ趣味の者同士で親しくなるのは当然だが、それ以外の者とも親しくなるのだ。つまり、写真を撮ってあげたり、撮った写真を配ったりすることが、同時に友人を持つ機会になるというわけである。

以上のことをまとめると、次のようになる。あんた、写真部に入んなさい！！（しかしいいのかなあ、貴重な紙面をPRに使って。まあいい、こんどから気を付けよう）

写真部の写真部としての活動は、文化祭におけるパネル展示と、そのための準備である。期間にしておよそ一ヶ月。その時こそ、各写真部員は「嗚呼、じっ自分は、写真部員なんだなあ」と涙なんか流すわけがないのだがとにかく、そう思うわけで、逆に言えば、それ以外の時は、各員でんではばらばらなのである。しかしまあ、写真という趣味が、そもそもの孤独に出来ているのだから、それも仕方ないと思うとります。かといって、部員同士の

つながりは弱いわけではないから、不思議なものである。

## 新聞部

「新聞部って……あることは知ってるけど、何やってんの？」

「部屋？ どこにあるの？ それ」

よく耳にする、私達にとっては残念なことですが、今日はこれに答えることにしましょう。

部室は、装い新たな物理室横の階段を四階まであがると、白いドアの、ほらあそこです。年中冷暖房完備。真中に大きな机が一つ。ここで活動の一部を行なっています。

現在、活版印刷の新聞の発行は年二回、タブロイド版です。もっと大きな新聞でたくさん発行したいのはやまやまですが、十二万円の予算では、これ以上は無理なのです。(●)一回の発行に要する金額は六万円前後。●それでも、なんとか新しい企画を、みんなが楽しめるような新聞をと、スタッフ一同頭をひねっております。

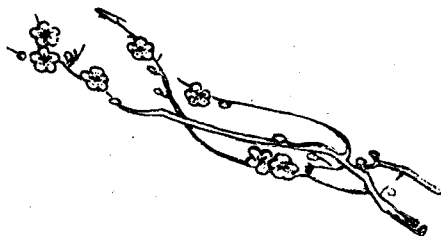
年二回の新聞発行なら、あんまり活動はしていないんだナと思われそうですが、なんの

なんの……。第一、一回の新聞発行は二ヶ月も前から計画が立てられているのですから。それに、新聞発行以外の活動も無視できません。北野交歓や運動会では、全校生徒の視線を集める大仕事をしています。そう、花の得点係。中には熱心さのあまり、金網にへばりついて仕事をした部員もいるのです。また、今年の文化祭には、始めとつびな企画(最終的には変更)をし、勇ましくも(浅薄にも?)部長以下4名は近いのいいことに、府警の少年課へ紹介状もなしに、いきなり乗りこんだのです。そのため、府警、生活指導の浜田先生、顧問の朝田先生には、大変御迷惑をおかけいたしました。どうもすみませんでした。

このほか、他校訪問や他府県高校新聞部との新聞交換会、そして実戦をまじえたナポレオン、百人一首の手ほどきも……。

テスト前の活動を除けば、こんな楽しいクラブはありません。いろんな所へ行けるし、いろんな話は聞けるし……

ぜひ一度、部室見学をどうぞ



## 編集後記

一冊の本を作るといふ、この苦勞が今、わかったような気がする。とにかく何をするにしても時間がない。文化委員の人は本当に御苦勞さまでした。試験中に原稿を書いてもらったことについては本当に悪いことでした。しかしこの苦勞も今となつてはすばらしい一冊の本となりました。内容は去年とはあまりかわっていませんが、おもしろさは増えているように思われます。

来年、スプリングを制作される方々へ何か一つテーマを決めてそれを中心においてよりすばらしいスプリングを制作して下さい。では、ゆっくりとお楽しみ下さい。  
スプリング パンザイ!